SONY®

3-858-174-**04** (1)

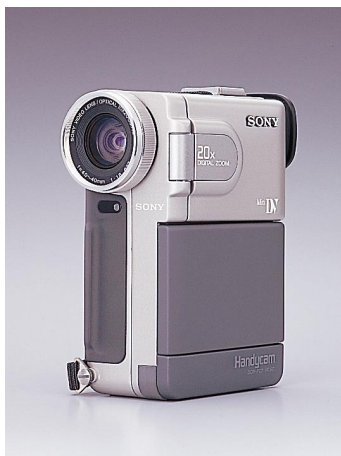
デジタルビデオカメラレコーダー

Mini DV Digital Video Cassette

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

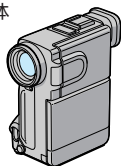
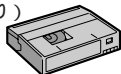
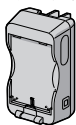
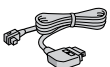
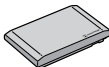
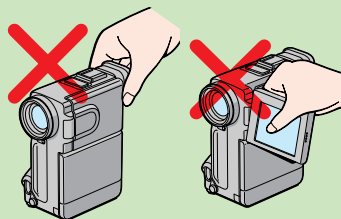
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

詳しい目次は7ページにあります。

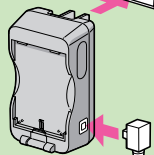
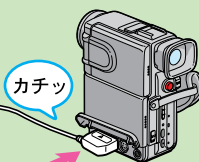
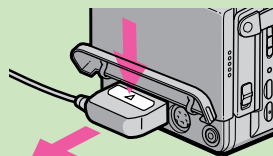
Handycam

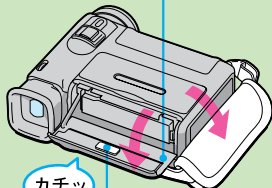
DCR-PC7

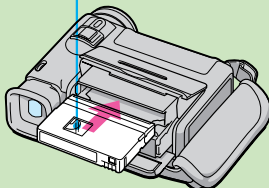
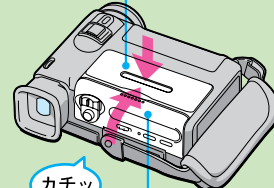
© 1996 by Sony Corporation

とにかく撮って見る

必要なもの

ビューファインダーや液晶画面を持たないでください！

1 電源をつなぐ（44ページ）

屋外ではバッテリーを使います →8ページ

接続プラグをはずすとき
ボタンを押しながら抜く

2 カセットを入れる（10ページ）

❶ **グリップベルトをよけて、カセットぶたを開ける。**

❷ **カセット取り出しボタンを押す。**

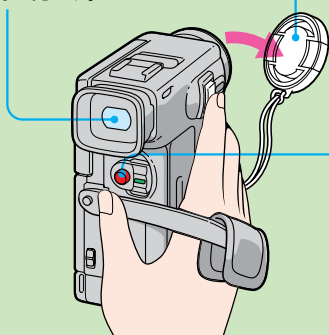
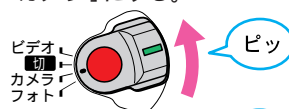
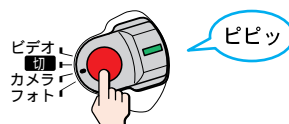
❸ **テープ窓を上側にして入れる。**

❹ **カセット入れを閉める。**

❺ **カセットぶたを閉める。**

3 撮影する（12ページ）

ビューファインダー
この部分に目をあてて
画像を見ます。

❶ **レンズキャップをはずす。**

❷ **緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。**

❸ **赤いボタンを押す。**
撮影が始まる。
もう一度押すと止まる。*

* 赤いボタンを押している間だけ撮影したり、5秒ずつ撮影するように設定するには、14ページをご覧ください。

4 再生する（17ページ）

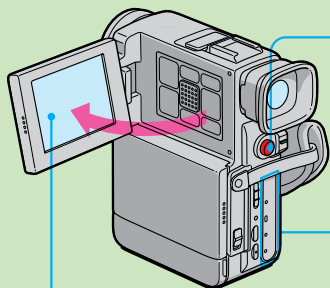
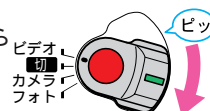
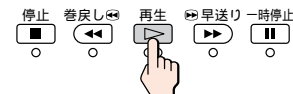
❶ **液晶画面を開ける。**

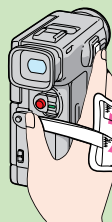
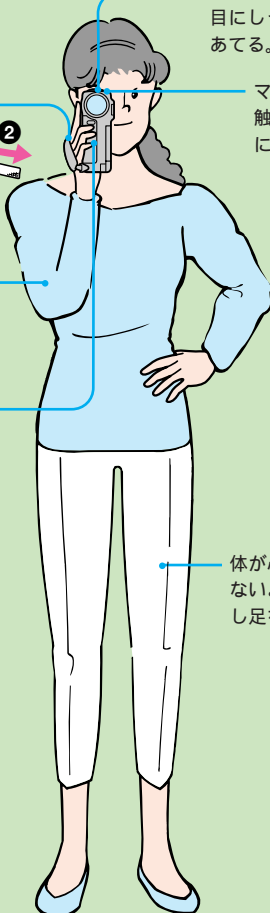
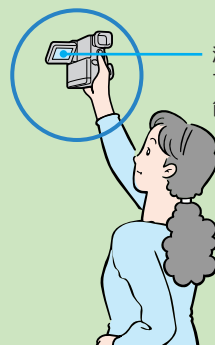
❷ **緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。**

❸ **◀◀ボタンを押して巻き戻す。**

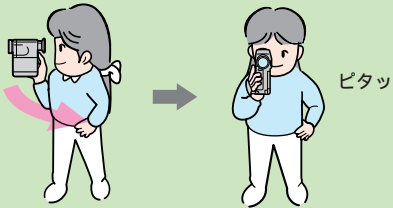
停止 ■　巻戻し ◀◀　再生 ▷　早送り ▶▶　一時停止 ❚❚

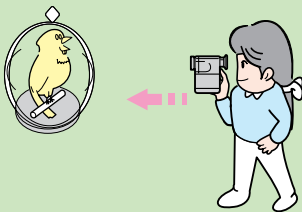
❹ **▷ボタンを押して再生する。**

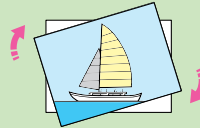
停止 ■　巻戻し ◀◀　再生 ▷　早送り ▶▶　一時停止 ❚❚

うまく撮る姿勢

見やすい画像にするコツは、ハンディカムを動かしすぎないことです。
ふらつかないよう、安定した姿勢で撮影しましょう。
より安定させたいときには左手をハンディカムの下に添えます。

撮影の基本

ハンディカムをふり回さない。

写真のつもりで固定して撮ります。左右に動かすとき（パンニング）は、撮り終わりの方につま先を向け、ゆっくり動かします。撮り始めと終わりは、しっかり止めます。

ズームは多用しない。

ズームスイッチをW側（Wide（ワイド）：広角）にすると、ブレが少なく、ピントが合いやすい状態になります。被写体を大きく撮りたいときは近づいて撮ることをおすすめします。ズームスイッチをT側（Telephoto（テレフォト）：望遠）にして撮るよりも、音もよく入り、安定したきれいな画像が撮影できます。

安定した画面にする。

- 壁によりかかるなどして安定した姿勢をとる。
- 水平、垂直の線をビューファインダーまたは液晶画面の枠に合わせる。

- 三脚を使う。

逆光を避ける。

太陽を背にして、被写体の正面に光が当たるようにします。

はじめに

必ずお読みください

別売りのアクセサリーキットについて

本機をお使いになるには、別売りのアクセサリーキットが必要です。お持ちでない場合は、お買い求めください。詳しい内容については、アクセサリーキットの取扱説明書をご覧ください。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません。

万一、ビデオカメラレコーダーなどの不具合により録画や再生がされなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶画面とビューファインダーについて

液晶画面やビューファインダーは非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現われたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。(有効画素99.99%以上)これらの点は、テープに記録されません。

本書内の写真について

ビューファインダーや液晶画面の映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

目次

はじめに

撮る

見る

使いこなす

撮影

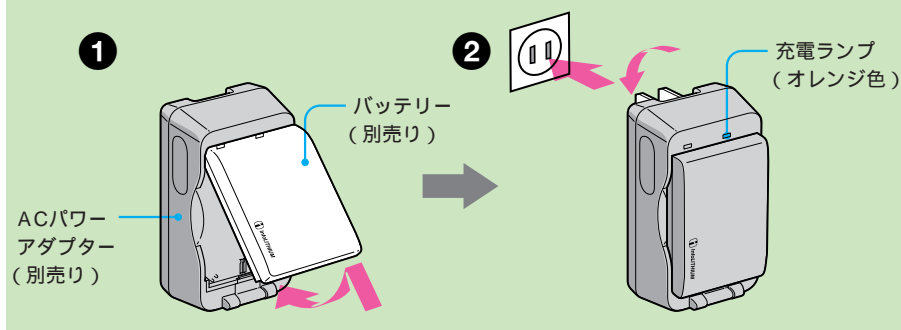
再生

編集

その他

ご注意など

準備1 バッテリーを充電する

バッテリーの充電には別売りの充電器が必要です。
ここではACパワーアダプターAC-V100を使った例を説明します。
別売りのACパワーアダプターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

バッテリーについて
本体にバッテリーを入れたまま充電する→44ページ

バッテリーは
撮影予定時間の2〜3倍用意していただくと安心です。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは
インフォリチウムバッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持った新しいタイプのリチウムイオンバッテリーです。本機はインフォリチウムバッテリー対応です。インフォリチウムバッテリーNP-F100、NP-F200で使えます。
InfoLITHIUM(インフォリチウム)はソニー株式会社の商標です。

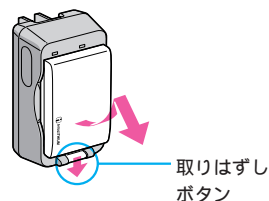
❶ バッテリーを取り付ける。

❷ コンセントにつなぐ。

充電が始まると、充電ランプが点灯する。
充電が終わると消える(**実用充電**)。さらに約1時間充電すると若干長く使えます(**満充電**)。

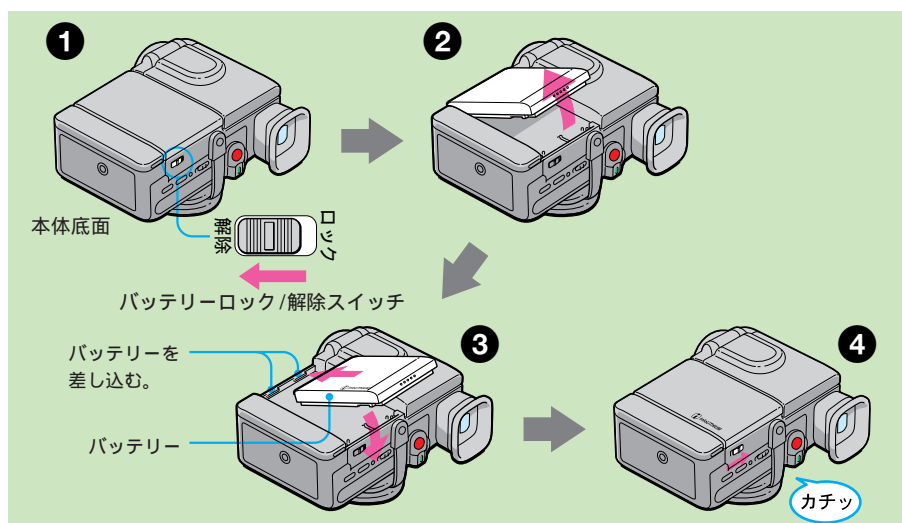
充電器から取りはずす

バッテリーを押さえながら取りはずしボタンを下げる。

バッテリーを落とさないようご注意ください。

充電時間

バッテリー	満充電時間(実用充電時間)
NP-F100	約130分(約70分)
NP-F200	約170分(約110分)

使い切ったバッテリーをAC-V100で充電したときの時間です。

準備2 バッテリーを本体に取り付ける

ご注意

バッテリーを取り付けたときはバッテリーロック/解除スイッチを「ロック」にしてお使いください。「解除」のまま使うとバッテリーが落下することがあります。

誤動作を防ぐために
バッテリーを出し入れするときは必ず電源スイッチを「切」にしましょう。

撮影中のバッテリー残量時間表示
バッテリーパックNP-F100、NP-F200をお使いのときは、あと何分連続撮影で使えるかを画面に表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

* 録画、スタンバイ、電源入/切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがある。
** 常温で撮影したときの時間。低温では使用時間が短くなります。

❶ **バッテリーロック/解除スイッチを「解除」にする。**

❷ **バッテリー端子カバーを取りはずす。**

❸ **バッテリーを取り付ける。**

❹ **バッテリーロック/解除スイッチを「ロック」にする。**

本体から取りはずす

手順❶、❷のようにして取りはずす。

使用時間

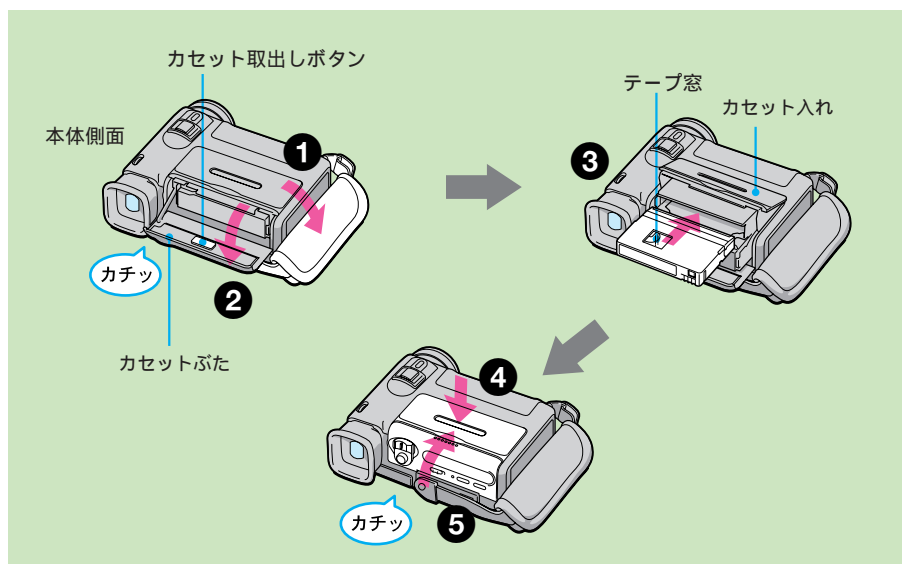
ビューファインダーでの使用時間

バッテリー	実撮影時*	連続撮影時**
NP-F100	約30(25)分	約55(45)分
NP-F200	約50(45)分	約100(85)分

液晶画面での使用時間

バッテリー	実撮影時*	連続撮影時**	再生時
NP-F100	約25(20)分	約45(40)分	約50(45)分
NP-F200	約40(35)分	約75(70)分	約90(80)分

いずれも満充電してから、( )内は実用充電してから使用したときの時間です。

準備3 カセットを入れる

ご注意

- カセットぶたを開けるときは必ずグリップベルトをよけてから開けてください。よけずに開けるとカセットぶた破損の原因となります。
- カセット入れを無理に押し込まないでください。故障の原因になります。
- カセット入れに指をはさまないようにご注意ください。はさまれたときは、約2秒後に自動的にカセット入れが開きます。
- カセット入れが完全に引き込まれてからカセットぶたを閉めてください。
- カセットを出し入れするときは本体を落とさないようご注意ください。

誤動作を防ぐために
カセットを出し入れするときは必ず電源スイッチを「切」にしましょう。

❶ グリップベルトをよける。

❷ 前面のカセットぶたを開けて、カセット取出しボタンを押す。
カセット入れが自動的に出て開く。

❸ カセットを入れる。
テープ窓を上にして入れる。

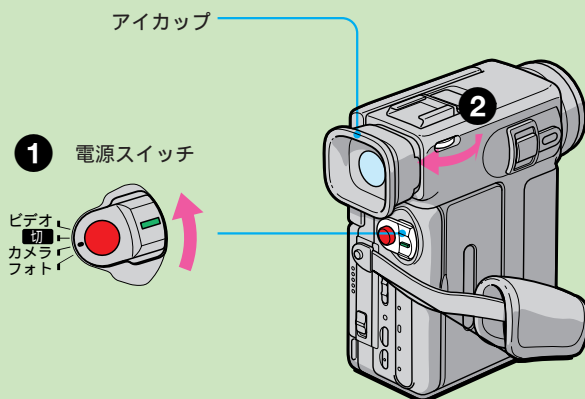
❹ カセット入れを閉める。
カセット入れが自動的に引き込まれる。

❺ カセットぶたを閉める。

カセットを取り出す

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順3で取り出す。

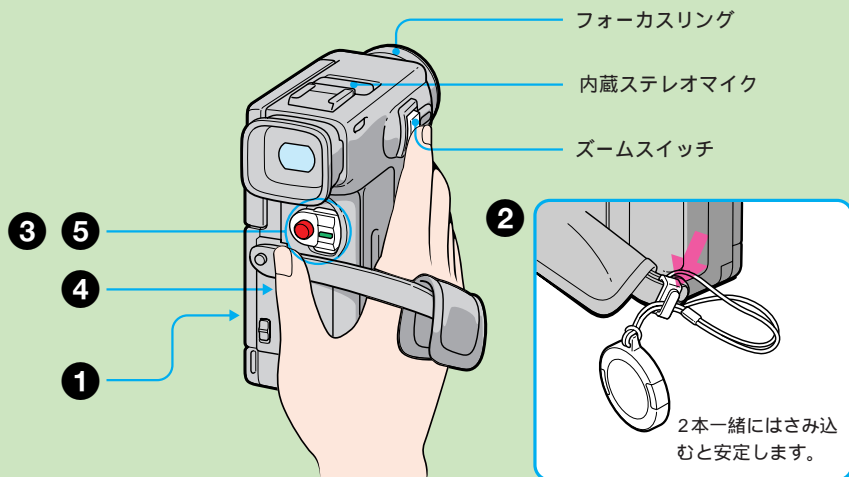
準備4 ビューファインダーを調節する

ビューファインダーの画像がはっきり見えないとき、自分の視力に合わせて調節します。

眼鏡をかけている方や画面の四隅が見えないときは
アイカップを折り返してお使いください。

1 電源スイッチを「カメラ」にする。

2 視度調節ダイヤルを回す。

ビューファインダーの文字がはっきり見えるようにする。

撮影する

ご注意

- 屋外では日差しの加減で液晶画面が見えにくいことがあります。
- 液晶画面、ビューファインダーやレンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- クローズアップレンズ（別売り）を付けたままレンズを太陽に向けないでください。本機の故障の原因になります。
- 内蔵ステレオマイクにさわらないようご注意ください。

長時間電源を入れたままにしておくと

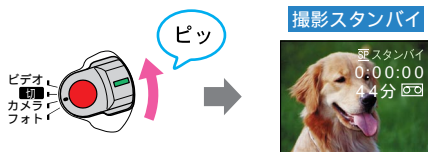
本体があたたかくなりますが故障ではありません。

❶ バッテリーなどの電源を付け、カセットを入れる。

「準備1～3」（8～10ページ）をご覧ください。

❷ レンズキャップをはずしてグリップベルトに付ける。

❸ **緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。**

撮影スタンバイになる。

長時間録画したいときは
LPモードで録画することもできます。（詳しくは46ページ）

撮影スタンバイ状態が5分以上続くと
自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。再び撮影をはじめるときは電源スイッチを一度「切」にしてから「カメラ」に戻します。

外部マイクをつなぐと
音声を録音できます。このときは別売りのアダプターVMC-LM7が必要です。外部マイクをアダプターのMIC端子につなぎます。
外部マイクをつないでいるときには、本体のマイクの音は録音できません。

タイムコードについて
ビューファインダー内と液晶画面にテープ走行時間が「0:00:00」（時：分：秒）と出ます。ビデオモードのときには「0:00:00:00」（時：分：秒：フレーム）と出ます。あとからこのタイムコードだけを書き直すことはできません。本機のタイムコードはドロップフレーム方式を採用しています。（詳しくは65ページ）

テープの残量表示について
テープの種類によっては正しく表示されないことがあります。また表示が出ない場合は、再生または録画が始まると数秒で表示が出ます。

❹ スタート/ストップモードスイッチを ⏍ にする。

（お買い上げ時は ⏍ になっています。）

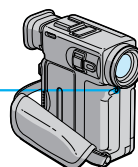
スタート/ストップモード
5秒

❺ スタート/ストップボタンを押す。

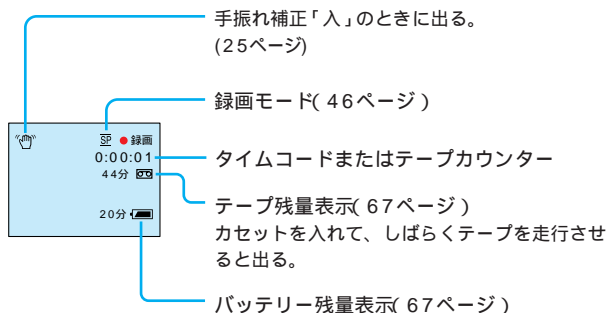
（ボタンは強く押し込まないでください。スイッチ音が記録されてしまうことがあります。）

撮影が始まる。

もう一度押すと止まります。 ピピッ

撮影中に点灯する。

撮影中の表示

これらの表示はテープには記録されません。（ビューファインダーと液晶画面に同じ表示が出ます。）

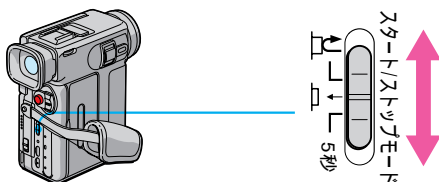
撮る

きれいなつなぎ撮りのために
カセットを取り出さない限り、電源を切っても撮影した場面はきれいにつながります。バッテリーの交換は電源を切ってから行えば、きれいなつなぎ撮りができます。

次のようなときは
つなぎ撮りの部分で再生画像が乱れたりタイムコードが正しくつながらないことがあります。
・テープの途中で録画モード(SP/LP)を変える。
・LPモードでつなぎ撮りをする。

スタート/ストップモードで「5秒」を選んだとき
画面に「・・・・・」が出て1秒たつごとに・が1つずつ消えます。撮影時間を延長するには・がすべて消えてしまわないうちに、もう1度スタート/ストップボタンを押します。押したときからまた約5秒間撮影されます。

近くのものにピントがうまく合わないときは
ズームスイッチをW側に動かして広角にします。
ピントが合うのに必要な被写体との距離は、W側では約1cm以上、T側では約80cm以上です。

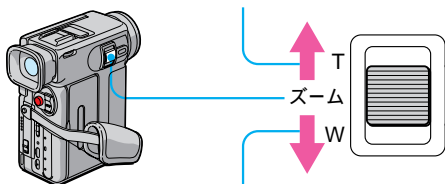
デジタルズームについて
・デジタルズームを使うと、ズーム倍率は20倍までになります。
・画像をデジタル処理するため画質が低下します。デジタルズームを使う必要がないときは、メニューで「デジタルズーム」を「切」にすると、気付かないうちにデジタルズームになるのを防ぎます（47ページ）。

スタート/ストップモードを選ぶ

：スタート/ストップボタンを押すと撮影が始まり、再び押すと止まります（お買い上げ時の設定）。

：スタート/ストップボタンを押している間のみ撮影し、離すと止まります。

5秒：スタート/ストップボタンを押すと5秒間撮影して止まります。

ズームする

ズームスイッチを動かす。 少し動かすとゆっくりズームし、さらに動かすと速くズームする。

使いすぎると
見づらい作品になります。

10倍を超えるズームはデジタルズームになります。

このラインよりT側が
デジタルズームになります。

撮影スタンバイ中のズームスピードはすばやく画角を決められるよう撮影中より速くなります。

ご注意

- 液晶画面を開いているときはビューファインダーには画像が映りません。ただし、対面撮影中はビューファインダーにも画像が映ります。
- 液晶画面やビューファインダーは非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。（有効画素99.99%以上）これらの点は、テープに記録されません。

液晶画面を見せながら撮影することもできます

21ページをご覧ください。

撮影が終わったら

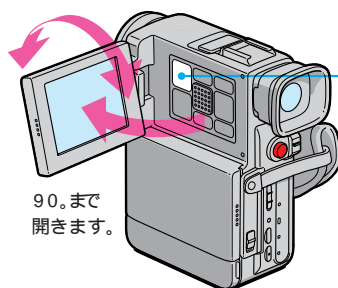
1 **電源スイッチを「切」にする**

2 **カセットを取り出す。**

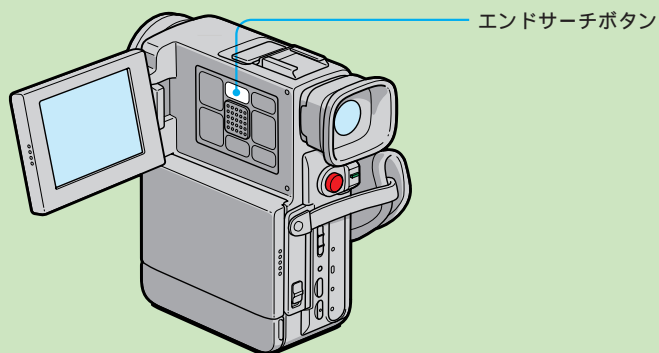
3 **バッテリーを取りはずす。**

液晶画面を見ながら撮影する

液晶画面を開く。

角度を調節する **画面の明るさを調節する**

前方向に180。まで、手前90。まで回転します。

最後に撮影した部分に戻る

最後に撮影した画面からつなぎ撮りしたいときや、撮った画面が気になるときに使います。

ご注意

次のとき、エンドサーチ機能は働きません
・ 撮影後、カセットを取り出したとき
・ テープを入れてから一度も撮影していないとき

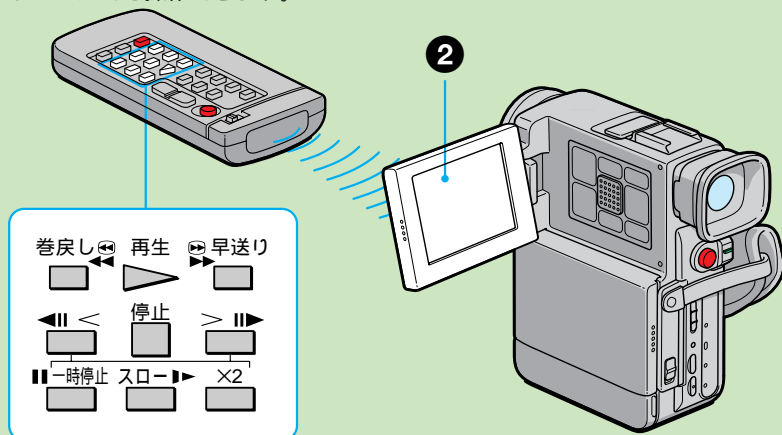
エンドサーチとは？
本機では、撮影後にカセットを取り出すまで最後に撮影を終えたテープの位置を記憶しています。エンドサーチはこの位置を探す機能です。

最後に撮影した部分に戻る。ーエンドサーチ

[撮影スタンバイ中] に**液晶画面を開け、エンドサーチボタンを押す。**

最後に撮影した終わりの約5秒間が再生されて止まる。

再生する

撮影したテープを液晶画面でもビューファインダーでも見られます。
リモコンでも操作できます。

ご注意

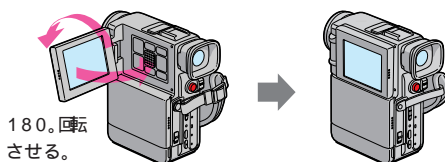
海外で録画されたテープには、本機で再生できないものもあります。これはカラーテレビ方式が異なるためです。

長時間電源を入れたままにしておくと

本体があたたかくなりますが故障ではありません。

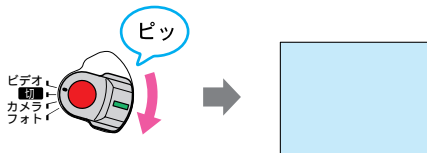
❶ バッテリーなどの電源を付け、再生したいカセットを入れる。

❷ **液晶画面を開ける。**

液晶画面を外側に向けて本体に閉じることもできます。

❸ **緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。**

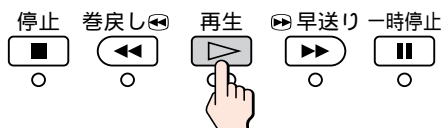
テープ走行ボタンが点灯する。

見る

次のページへつづく

液晶画面を閉じると
スピーカーから音は出ません。液晶画面を外側に向けて閉じているときは音が出ます。

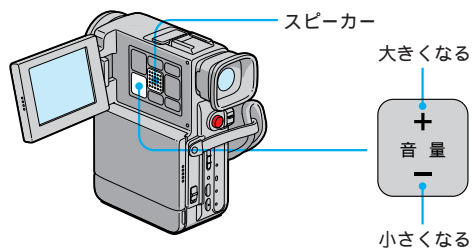
ヘッドホンで音を聞くには
ヘッドホンを映像音声出力／🎧（ヘッドホン）端子につなぎます。音量＋／－ボタンで音量調節ができます。

❹ 巻き戻しボタンを押す。

巻き戻しが始まる。

❺ 再生ボタンを押す。

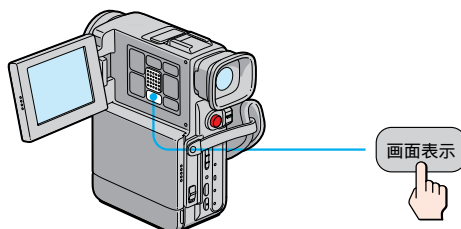
画像が映る。

音量を調節する

液晶画面を開けて、音量＋/－ボタンを押して調節する。

タイムコードなどの表示を出すー画面表示機能

本体またはリモコンの画面表示ボタンを押す。

液晶画面に表示が出ます。

消すときは、もう1度押します。

ふつうの再生以外のときは

・音声は出ません。
・前の画像がモザイク状に残って再生されることがありますが、故障ではありません。

一時停止（静止画）について

・5分以上続くと自動的に停止状態になります。再生するときは、もう1度►再生ボタンを押します。
・前の画像が残ることがあります。

エンドサーチとは？

本機では、撮影後にカセットを取り出すまで最後に撮影を終えたテープの位置を記憶しています。エンドサーチはこの位置を探す機能です。
撮影後、カセットを取り出していないときに限り、エンドサーチが働きます。

スロー再生について

本機にはスローの画像もなめらかに再生する機能があります。ただしDV入力/出力端子から出力される信号にはこの機能は働きません。

いろいろな再生

止める

[再生中] ■停止ボタンを押す。

静止画を見る

[再生中] ❚❚一時停止ボタンを押す。もう1度押すか、
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

早送りする

[再生中] ■停止ボタンを押し、►►早送りボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

巻き戻す

[再生中] ■停止ボタンを押し、◄◄巻き戻しボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

逆方向に再生する

[再生中] リモコンの＜ボタンを押す。
►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

ひとコマづつ画像を見る（コマ送り再生）

[一時停止中] にリモコンの❚❚►（コマ送り）または◄❚❚（コマ送り）ボタンを押す。►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

2倍速で画像を見る（倍速再生）

[再生中] にリモコンの×2ボタンを押す。
逆方向に倍速再生するときは、リモコンの＜を押してから×2ボタンを押す。►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

画像を見ながら早送り/巻き戻しする

[再生中] ►►早送りボタン/◄◄巻き戻しボタンを押し続ける。
離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り/巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）

[早送り中] または [巻き戻し中] ►►早送りボタン/◄◄巻き戻しボタンを押し続ける。離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

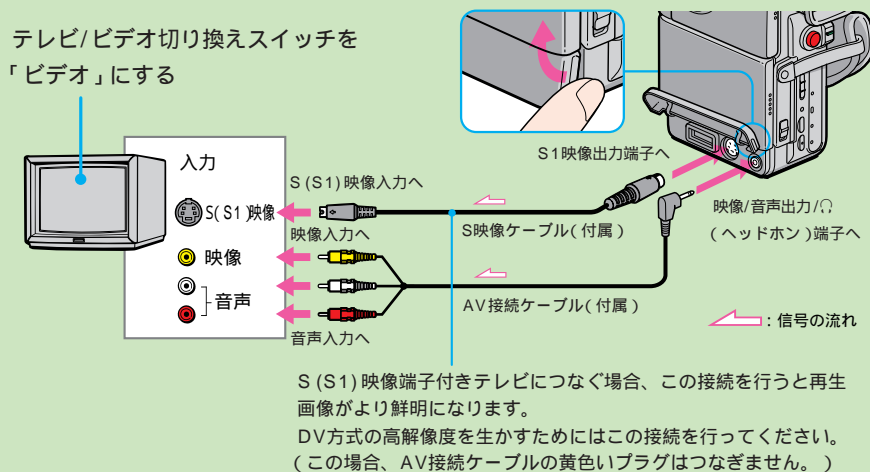
スロー画を見る

[再生中] リモコンのスロー❚►を押す。
逆方向にスローで再生するときはリモコンの＜を押してからスロー❚►を押す。►再生ボタンを押すとふつうの再生に戻る。

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）

[停止中] エンドサーチボタンを押す。最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機に
付属のAV接続ケーブルを下の図のようにつなぎます。
再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。

お手持ちのテレビにS1映像入力端子がついているときは
本機のS1映像出力端子とつなぐと、本機で撮影したワイド画像を映そうとすると自動的にワイド画像に切り換わります。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぐ。

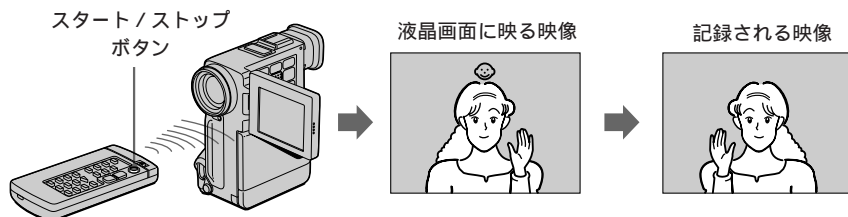
音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が聞こえます。

モノラル音声でお聞きになりたいときは別売りの接続コードRK-C165をお使いください。

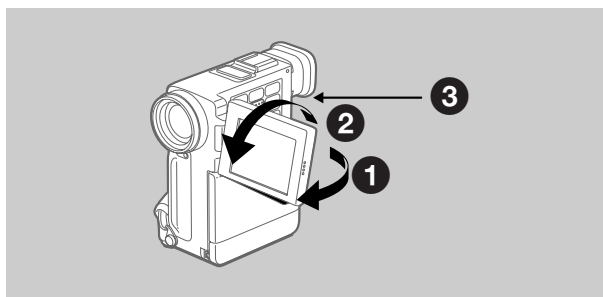
液晶画面を見せながら撮る－対面撮影

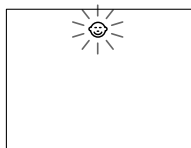
液晶画面を180。反転させると、相手に自分が撮られている映像を見せながらビューファインダーをのぞいて撮影できます。

本体を固定すれば液晶画面を見ながら自分を映すこともできます。

液晶画面に映る画像は鏡のように左右が反転しますが、記録される映像は実際の被写体と同じです。

対面撮影中は
以下の機能は働きません。
- メニュー
- リモコンのゼロセットメモリーボタン

対面撮影中の表示
- 撮影スタンバイ中は❚❚●、撮影中は●が表示されます。
- その他の表示は左右が反転します。表示が出ないものもあります。

対面撮影時のバッテリーの使用時間は
液晶画面を使っての撮影時間（9ページ）より若干短くなります。

❶ [撮影スタンバイ中] に
液晶画面を開ける。

❷ **液晶画面を180°回転させる。**
対面撮影モード表示 ☺ が出る。

❸ **撮影する。**
リモコンを使うと便利です。（62ページ）

目的に合わせて撮る：プログラムAE

被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行います。

スポーツレッスンモード
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のブレを少なくします。

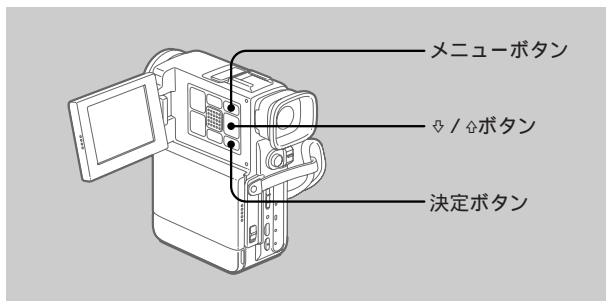
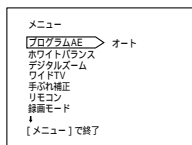
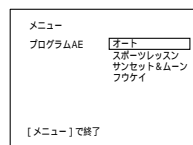
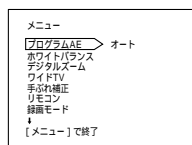
風景モード
山などの遠くの景色を撮影するときに景色をはっきりさせ、風景を窓ガラスや金網越しに撮影するときに、手前のガラスや金網にピントが合うのを防ぎます。

サンセット&ムーンモード
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに再現します。

ご注意

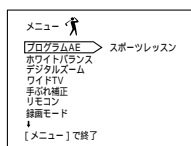
- スポーツレッスンモードでは近くのものにピントが合わないようにフォーカスを制御します。
- 次のモードでは遠景のみにピントが合うようにフォーカスを制御します。
  －サンセット＆ムーンモード
  －風景モード
- 次のモードでは屋外で最適になるようにホワイトバランスを制御します。

－サンセット＆ムーンモード
－風景モード

ホワイトバランスを「オート」にしているときは
プログラムAEを使うときにも自動的にホワイトバランスが調節されます。

1 [撮影中] または [撮影スタンバイ中] に、**メニューボタンを押し、メニュー画面を出す。**

2 **⇩または⇧を押して「プログラムAE」を選び、決定ボタンを押す。**

❸ ⇩または⇧を押して希望のモードを選び、決定ボタンを押す。

プログラムAEモード表示が出る。

❹ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

自動調節に戻すとき

手順3で「オート」を選ぶ。

フェードイン・フェードアウトする

白画面から徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、逆に徐々に消したり（フェードアウト）する演出ができます。

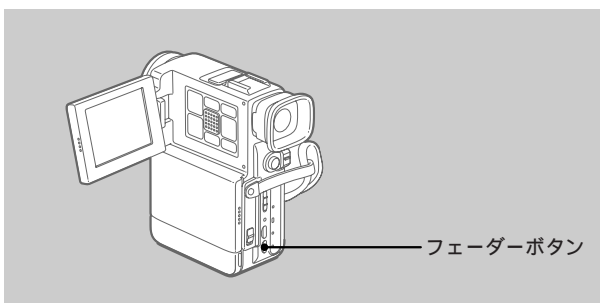
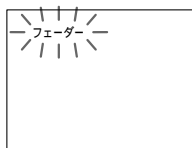
例：白画面からのフェードイン

こんなときに使うと効果的です

・ 大きな場面転換（フェードアウト・フェードイン）
・ 物語の始めなど（フェードイン）
・ 一日の終わりなど（フェードアウト）
・ 余韻を残して終わる（フェードアウト）

フェードを多用すると
被写体の状況が わかりづらくなり、見づらい映像になります。

次のとき、フェードイン・フェードアウトはできません

・ スタート/ストップモードつまみが か5秒のとき
・ フォトモードのとき

1 ・フェードインは [撮影スタンバイ中] に
・フェードアウトは [撮影中] に
フェーダーボタンを押してフェーダー表示を出す。

2 **スタート/ストップボタンを押す。**

フェーダー表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消える。フェードイン、フェードアウトはフェード終了後に自動的に解除されます。

フェードイン・フェードアウトを解除する

フェード終了後：自動的に解除される。

フェード前：スタートストップボタンを押す前に再度フェーダーボタンを押し、液晶画面の表示を消す。

手振れ補正を解除する

手振れ補正はハンディカムを手に持って撮るときに効果があります。

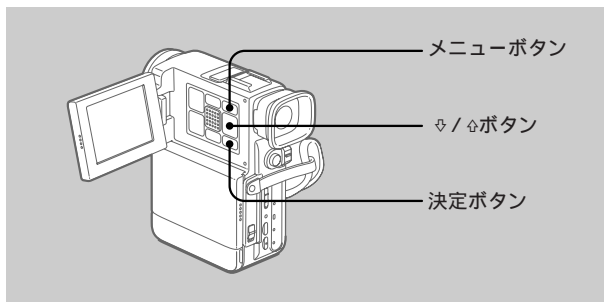
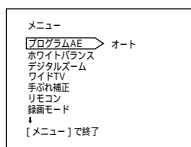
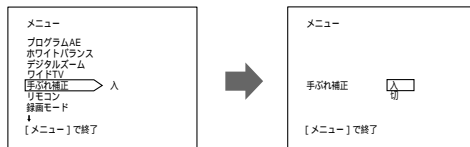
三脚に取り付けるなど手振れの心配がないとき。

ご注意

手振れ補正が「入」になっていても、手振れが大きすぎると、補正されないことがあります。

手振れ補正を解除しているとより自然な画像になります。このときは手振れ補正表示が出ません。

次のレンズを取り付けると手振れ補正が効きにくくなります

・テレコンバージョンレンズ
・ワイドコンバージョンレンズ

1 [撮影スタンバイ中] に、**メニューボタンを押し、メニュー画面を出す。**

2 **⇩または⇧を押して「手振れ補正」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **⇩を押して「切」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

手振れ補正を働かせるときは

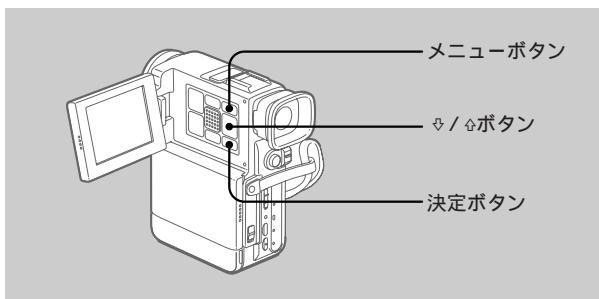
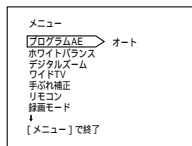
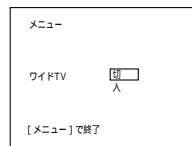
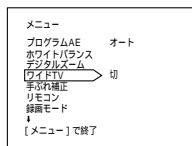
手順3で「入」を選び、決定ボタンを押す。

使いこなす

横長の画面にする – ワイドTVモード

再生したときに横長の画面になるように撮影します。接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイドテレビで画面いっぱいに映るようにしたいとき

録画中は
ワイドTVモードを選んだり、解除したりできません。

1 [撮影スタンバイ中] に、**メニューボタンを押し、メニュー画面を出す。**

2 **⇩または⇧を押して「ワイドTV」を選び、決定ボタンを押す。**

ビデオIDシステム(ID-1)式対応のテレビに接続すると
「ワイドTV」を「入」にして記録された画像が再生されると自動的にフルモードに切り換わります。テレビのS1映像入力端子に接続したときも自動的に切り換わります。

❸ ⇩または⇧を押して「入」を選び、決定ボタンを押す。

❹ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

ワイドモードを解除するとき

手順3で「切」を選ぶ、決定ボタンを押す。

静止画を撮る–フォトモード撮影

通常のスチルカメラで撮影するように、静止画を録画できます。明るさに応じてシャッタースピードを自動で1/1000秒まで調節します。60分のテープなら約510枚撮れます。

・後からテレビやモニターで記念写真のように見たいとき
・パソコンに静止画を取り込みたいとき
・ビデオプリンターでプリントしたいとき、など。

ご注意

静止画を記録中は電源を切ったりスタート/ストップボタンを切りかえたりすることはできません。

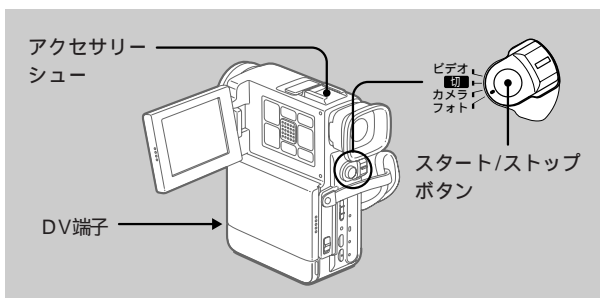
本機で記録した静止画を他の機器で再生すると

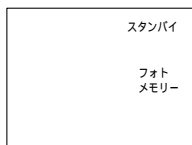
動きのある部分がぶれることがありますが、故障ではありません。

リモコンのフォトボタンを押すと

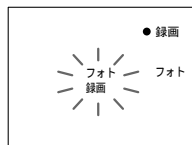
押したときに映っている画像が記録されます。軽く押して画像を確認することはできません。

暗いときは

別売りのビデオフラッシュHVL-F7をアクセサリーシューに取りつけてご使用ください。このときには別売りのアダプターVMC-LM7が必要です。ビデオフラッシュを取りつけると雑音が入ったり音質が変ったりすることがあります。このような場合は別売りのアクセサリーシューアダプターVCT-55Lをお使いください。

1 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「フォト」にする。

2 スタート/ストップボタンを軽く押したまま画像を確認する。

画像が静止画になり、フォトメモリー表示が出る。
このとき録画はされません。

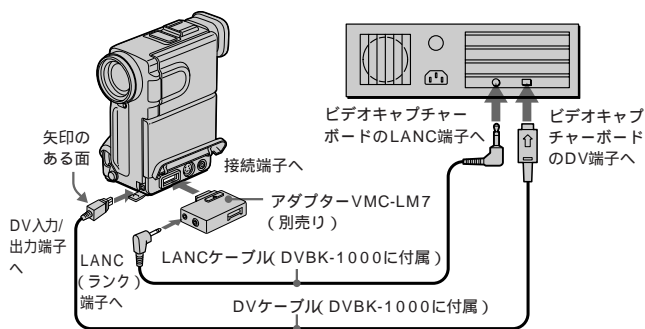
画像を選びなおすときはスタート/ストップボタンを離してからもう1度軽く押す。

3 スタート／ストップボタンを強く押し込む。

録画中は「フォト録画」が点滅する。

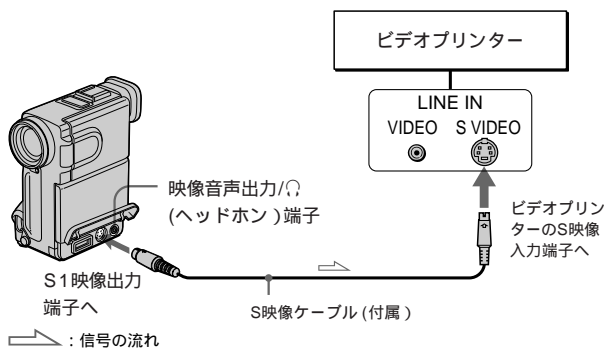
ボタンを押し込んだときの画像が約7秒間静止画で記録される。記録中の音声も同時に録音される。

記録中にビューファインダーまたは液晶画面にうつる画像は動画となります。

静止画をパソコンに取り込む

本機と別売りのDV静止画キャプチャーボードキットDVBK-1000（PC/AT互換機用）を使うと、パソコンに静止画を取り込めます。

詳しくはDV静止画キャプチャーボードキットDVBK-1000の取扱説明書をご覧ください。

静止画を別売りのビデオプリンターでプリントする

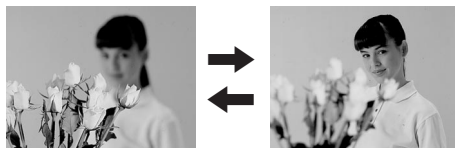
本機と別売りのビデオプリンターを使うとビデオプリンターに画像を取り込みプリントできます。

ビデオプリンターにS映像入力端子がないときは、付属のAV接続ケーブルを本機の映像音声出力/🎧(ヘッドホン) 端子につないで、黄色いプラグをビデオプリンターの映像入力端子につなぎます。

ビデオプリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

使いこなす

手動でピントを合わせる

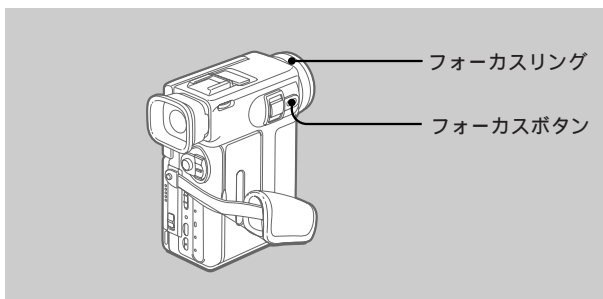
撮影状況に応じて、手動でピントをあわせることができます。

・自動でピントが合いにくいとき
・ピントを固定したいとき
・手前の花から後方の人物へと、意図的にピントの合う位置を変えたいときなど

こんなときに使うと効果的です
・被写体が水滴のついた窓ごしにあるとき
・被写体が横じまだけのもののとき
・被写体と背景とのコントラストが低いとき

ズームのときにもピントがずれないようにするには
ズームをT側（望遠）にしてからピントを合わせます。ただし、デジタルズームを使用するとピントが合わせにくくなります。

近づいて大きく撮るとき
ズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。。

次のようなときには
手動ピント合わせをしたあと、なるべくW側（広角）で撮ります。
・暗い室内で撮るとき
・明るい野外で動きの激しいものを撮るとき

マークが点灯したら
それ以上近くにピントを合わせることはできません。少し離れて撮影します。

❶ [撮影スタンバイ中] または [撮影中] に**フォーカスボタンを軽く1回押す。**
手動ピント合わせ表示が出る。

❷ **フォーカスリングを回し、ピントを合わせる。**

ピントを無限遠にして撮影する

フォーカスボタンを深く押し込むとピントが無限遠になり、の表示が出る。

自動調節に戻すとき

フォーカスボタンを軽く押して、表示または表示を消す。

画像の明るさを固定する – AEロック

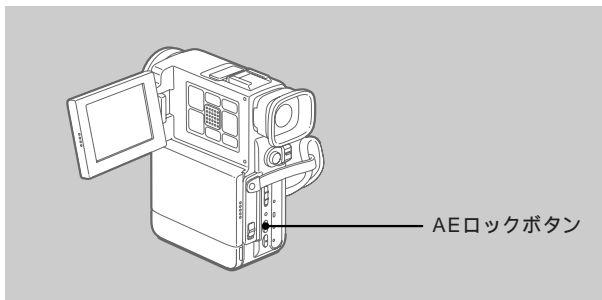
画像をお好みの明るさに固定することができます。

・逆光補正を行いたいとき
・背景に比べて、被写体が明るすぎるとき
・スポットライトのあたったステージを撮りたいとき
・夜景を撮りたいとき、など。

明るさを自動調節しているときは
被写体がはっきり映るように調節するため、実際よりも明るく映ることがあります。

逆光のときや背景に比べて被写体が明るすぎるときは
被写体に近づくか、ズームして被写体を大うつしにして明るさを固定します。そのあとで被写体をお好みの大きさで撮影するときれいに撮影できます。

スポットライトがあたったステージを撮るときは
スポットがあたった状態で明るさを固定しておくといつも同じ雰囲気の画像を撮影することができます。

プログラムAEで撮影中に明るさを固定したときは
プログラムAEのモードを変えると明るさは自動調節に戻ります。

[撮影中] または [撮影スタンバイ中] に、
AEロックボタンを押す。

AEロック表示が出る。

ボタンを押したときに自動調節されていた明るさに固定される。

自動調節に戻すとき

AEロックボタンをもう一度押して、AEロック表示を消す。

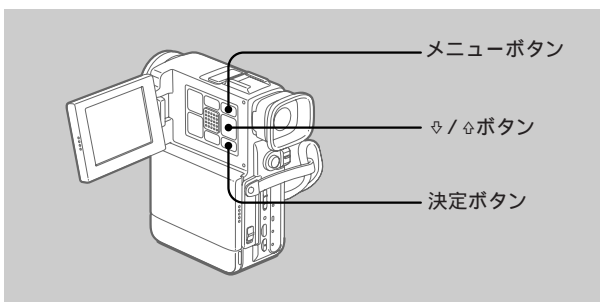
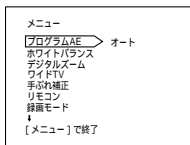
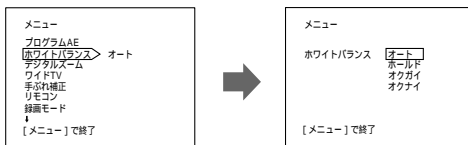
使いこなす

自然な色あいに調節する－ホワイトバランス

これから撮ろうとする光のもとで、自然な色あいの画像になるように手動で調節できます。通常は、自動的に色あいの調節が行われています。

・パーティー会場など照明条件が変化する場所で撮るとき
・夜景やネオンサインなどを屋外で撮るとき、など。

スタジオ照明やビデオライトで撮影する場合は
（オクナイ）に設定して撮影することをおすすめします。

蛍光灯照明下で撮影する場合は
ホワイトバランスを自動調節にするか、ホールドに設定して撮影することをおすすめします。（オクナイ）に設定して撮影すると、ホワイトバランスが正しくとれない場合があります。

1 [撮影中] または [撮影スタンバイ中] に、**メニューボタンを押し、メニュー画面を出す。**

2 ⇩または⇧ボタンを押して「ホワイトバランス」を選び、決定ボタンを押す。

光源が変わったときは
ホワイトバランスを調節しなおすことをおすすめします。

ホワイトバランスを「オート」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、電源スイッチを「カメラ」または「フォト」にしてから10秒間くらい白っぽい被写体に向けるとよりよい色あいに調節されます。
・ バッテリーを交換したとき
・ AEロックを動作させたまま屋外と屋内を行き来したとき

ホワイトバランスを「ホールド」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、ホワイトバランスを一度「オート」にしてしばらくしてから「ホールド」に戻してください。
・ プログラムAEのモードを変えたとき
・ 屋外と屋内を行き来したとき

❸ ⇩または⇧ボタンを押して希望のモードを選び、決定ボタンを押す。

選んだモードにより、ホワイトバランス表示が出る。
オートのとき：表示なし
ホールドのとき：ホールド
オクガイのとき：☀
オクナイのとき：☼

❹ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

自動調節に戻す

手順3で表示なし（オート）を選び、決定ボタンを押す。

手動で色あいを調節するほうがよい場合

撮影条件例	ホワイトバランス表示
・ パーティー会場など照明条件が変化する場所で撮るとき ・ スタジオなどビデオライトの下で撮るとき ・ ナトリウムランプや水銀灯の下で撮るとき	☼（オクナイ）にする
・ 夜景やネオン、花火などを撮るとき ・ 日の出、日没などを撮るとき ・ 昼光色蛍光灯の下で撮るとき	☀（オクガイ）にする
・ 単一色の被写体や背景を撮るとき	ホールドにする

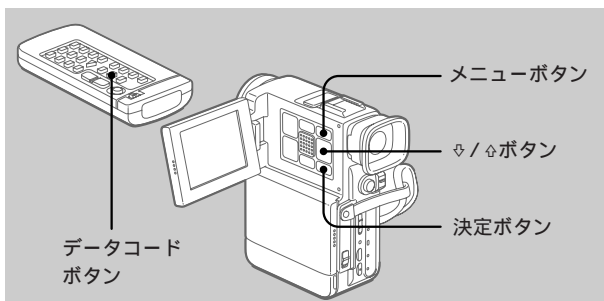
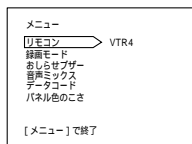
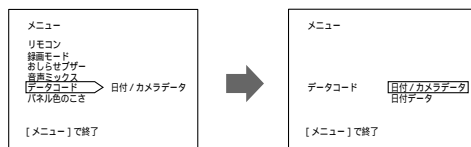
撮影日時とカメラデータを画面に出す – データコード

本機は、撮影時の日付・時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録しています（データコード機能）。再生時に希望の場所で出したり消したりできます。

再生中に撮影したときの日付・時刻やカメラデータを確認したいとき。

次のときは、--:--:--を表示します。
- 何も記録されていない部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を合わせないで撮影したテープ

データコードは
本機をテレビにつなぐと、テレビ画面にも出ます。

カメラデータとは
撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。

❶ [再生中] に、**メニューボタンを押し、メニュー画面を出す。**

❷ **⇩または⇧ボタンを押して「データコード」を選び、決定ボタンを押す。**

3 ⇩または⇧を押して希望の表示を選び、決定ボタンを押す。

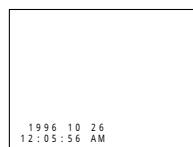
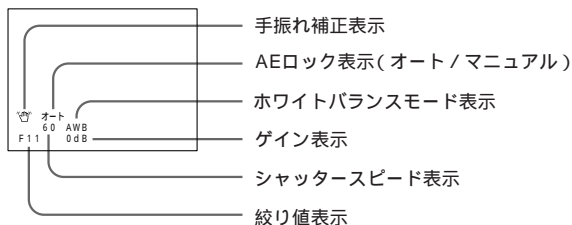
日付とカメラデータを順番に出す
→「日付／カメラデータ」を選ぶ。

日付データだけを出す
→「日付データ」を選ぶ。

4 メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

再生中に画面に出すときは

リモコンのデータコードボタンを押す。

日付の表示

カメラデータの表示

押すたびに次のように表示が変わる。

・メニューで「日付／カメラデータ」を選んだとき
日付が出る→カメラデータが出る→消える

・メニューで「日付データ」を選んだとき
日付が出る→消える

使いこなす

見たい場面にすばやく戻す – ゼロセットメモリー

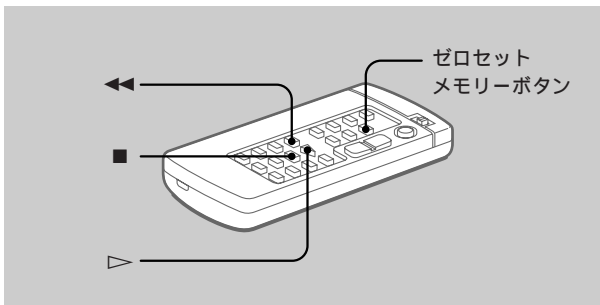
カウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。リモコンでのみ操作できます。

再生中に、後でもう一度見たいと思う場面があったときなど。

ご注意

- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう１度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- テープの途中に記録されていない部分があるとゼロセットメモリー機能が正しく働かない場合があります。

撮影スタンバイ中にも操作できます

ある部分だけ撮り直したいときに、撮り直したい部分の終了点でゼロセットメモリーボタンを押します。撮り直したい部分の開始点まで巻き戻して撮影を始めると終了点で再び撮影スタンバイになります。

1 [再生中] に、**後で見たい場面でゼロセットメモリーボタン押す。**

カウンター値が「0:00:00」になる。

2 **再生し終わったら、■停止ボタンを押す。**

3 **◀◀巻戻しボタンを押す。**

カウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止し、カウンターがタイムコード表示に戻り、ゼロセットメモリー表示が消える。

4 **▷再生ボタンを押す。**

もう1度再生される。

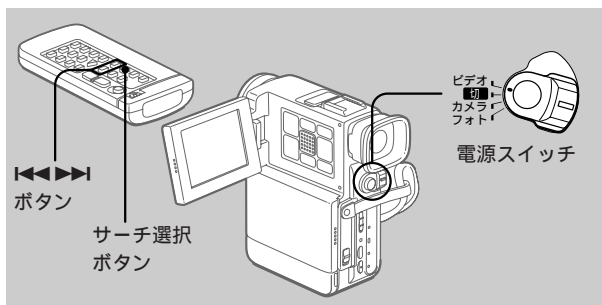
各場面の頭出しをする

各場面の頭出しができます。

録画を始めた部分を後になって探したいとき

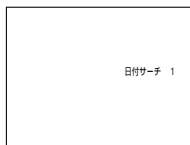
途中に記録されていない部分があるテープでは
正確にサーチできなかったり、データが正しく保存されなかったりする場合があります。

現在のテープの位置が、頭出ししたい場面の先頭と近すぎると
頭出しできないことがあります。

カセットメモリー機能は
本機では使えません。

❶ **電源スイッチが「ビデオ」になっていることを確認する。**

❷ **リモコンのサーチ選択ボタンを押して日付サーチかフォトサーチを選ぶ。**

押すたびに変わります。

❸ **⏮または⏭ボタンを押して頭出しを始める。**

押した回数だけ
⏮→前の
⏭→後の
場面が頭出しされる

サーチを止める

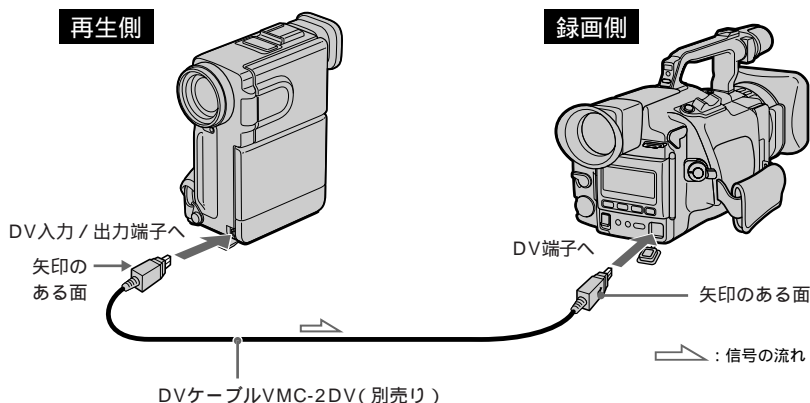
■ 停止ボタンを押す。

使いこなす

他のビデオ機器へ録画する–ダビング編集

DV接続ケーブルでつなぐ

本機とDV端子を持っている他のビデオ機器を1本のDVケーブルVMC-2DV（別売り）でつなぎダビング編集ができます。

デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

DVケーブルで本機と接続できるのは1台だけです。

本機は録画側としてもつかえます。
DVケーブルをつなぎかえなくても録画機または再生機として使えます。録画機として使うときは、液晶画面やビューファインダーに「DV入力」の表示が出るのを確認してください。両方の機器に出ることもあります。

再生一時停止にしている画像を
DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。

本機を録画機として使うときは
リモコンの録画ボタンのみ使えます。赤と黒のボタンを2つ同時に押してください。本機を録画機としてデジタルダビングしているときのモニターに色ムラが出ることがありますが、液晶画面やビューファインダー、ダビングされた画像には影響ありません。

❶ 本機に録画済みのカセットを、録画機に録画用のカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❸ 本機のカセットを再生し、録画機に録画したい場面でII一時停止ボタンを押す。

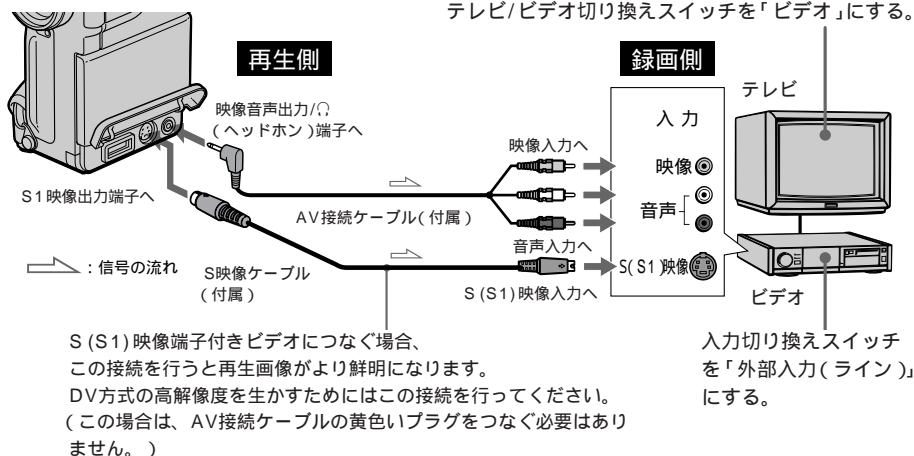
❹ 録画機を録画一時停止にする。

❺ 本機と録画機のII一時停止ボタンを同時に押す。

AV接続ケーブルでつなぐ

本機と他のビデオ機器をAVケーブルでつないで、ダビング・編集ができます。本機は再生機としてお使いください。

相手側のビデオはDV方式だけでなく、以下のどの方式のビデオでも使えます。

8, Hi8, VHS, VHS-C, S-VHS, S-VHS-C, β, ED Beta

音声入力端子がひとつ (モノラル) のビデオにつなぐときは
AV接続ケーブル (付属) の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。
音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

リモコンのボタンを押してデータコードの表示を消してから
ダビングしてください。
消さないでダビングするとテープに記録されてしまいます。

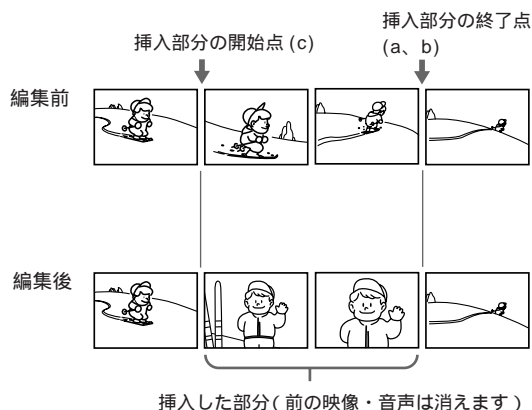
より精度の高い編集をするには
本機を再生機として、ファインシンクロエディット機能のあるビデオデッキと本機をLANCケーブルでつなぎます。このときは別売りのアダプターVMC-LM7が必要です。

1. **本機に録画済みのカセットを、録画機に録画用のカセットを入れる。**
2. **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**
3. **本機のカセットを再生し、録画機に録画したい場面でII一時停止ボタンを押す。**
4. **録画機を録画一時停止にする。**
5. **本機と録画機のII一時停止ボタンを同時に押す。**

使いこなす

記録ずみテープに映像と音声を挿入する

ＤＶ端子のついたビデオ機器とつなぐと、録画済みテープの指定した部分に、他の映像と音声、撮影日時、カメラデータを挿入できます。

３８ページの接続をし、他機に挿入したい部分の入ったテープを入れておきます。

ご注意

新しく挿入された部分の編集前の映像と音声は消えますのでご注意ください。

本機で録画されたテープに
映像と音声を挿入することをおすすめします。他のビデオ（DCR-PC7を含む）で録画したテープに挿入すると音質や画質が劣化することがあります。

新しく挿入された部分を再生すると
終了点の画像が乱れることがありますが、故障ではありません。

終了点を設定せずに録画するときは
手順3、4をとばします。
終了したいところで■停止ボタンを押します。

❶ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 他機（再生側）で、挿入したい部分の始めを探し、再生一時停止状態にする。

❸ 本機で、挿入部分の終了点を探し、再生一時停止状態にする (a)。

❹ リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す (b)。

「ゼロセットメモリー」が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、カウンター値が「0:00:00」になる。

❺ 本機で、挿入部分の開始点を探し、録画一時停止状態にする(c)。

❻ 本機と録画機の一時停止ボタンを同時に押す。

本機の挿入部分に、新たに再生側の映像と音声が記録され始める。

終了点(カウンター値「0:00:00」)付近で、自動的に本機は停止して、録画が終わり、ゼロセットメモリーが解除されます。

終了点の位置を変える

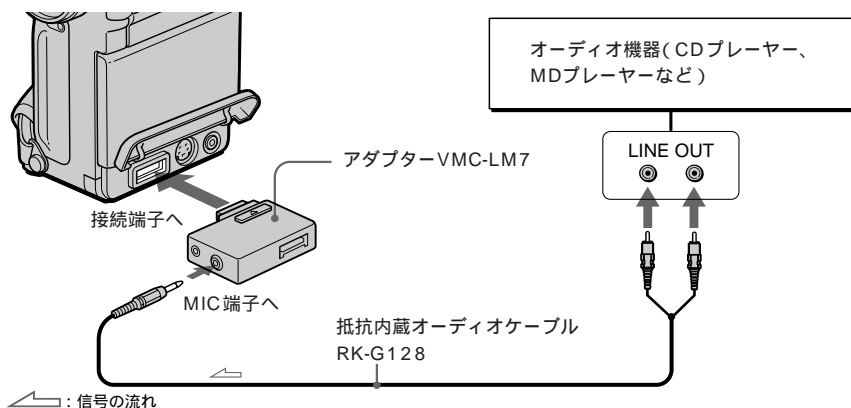
手順5の後でゼロセットメモリーボタンをもう1度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順2からやり直す。

途中で止める

■停止ボタンを押す。

記録ずみテープに音声を追加する– アフレコ

オーディオ機器またはマイクをつないで録音します。

別売りのアダプターVMC-LM7を使ってオーディオ機器とつないで、録画済みテープの指定した部分に音声を追加できます。撮影時の音声は消えません。リモコンでのみ操作できます。

外部マイクを使うときはアダプターのMIC端子につなぎます。

内蔵マイクで音声を追加するときは
アダプターVMC-LM7は必要ありません。

ご注意

- 16ビットで記録されたテープには、アフレコできません。
- 外部マイクを接続していないときは、内蔵マイクからアフレコされます。
- LPモードで記録されたテープには、アフレコできません。

❶ 本機に録画済みカセットを入れる。

❷ 本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

より正確にアフレコするには
再生中にアフレコを終了したいところで、あらかじめリモコンのゼロセットメモリーボタンを押しておきます。そのあと手順2からアフレコをはじめると、アフレコの終了点で自動的に録音が止まります。

本機で録画されたテープに
アフレコすることをおすすめします。
他のビデオ（DCR-PC7を含む）で録画したテープでアフレコすると音質が劣化することがあります。

16ビットで記録されたテープを再生するときは
音声ミックスの調整はできません。

❸ アフレコの開始点を決める。

本機の▷再生ボタンを押して再生し、アフレコを始めたいところで❚❚一時停止ボタンを押す。

❹ リモコンのアフレコボタンを押す。

❺ 本機の❚❚一時停止ボタンを押すと同時に、オーディオ機器またはマイクで追加する音声を出す。

画像を再生しながら、ステレオ2に追加する音声を記録します。撮影時の音声（ステレオ1）は出ません。

❻ アフレコを終了したいところで本機の■停止ボタンを押す。

アフレコした音声を聞く

アフレコしたテープを再生する。

メニューの音声ミックスで撮影時の音声（ステレオ1）とアフレコした音声（ステレオ2）の音のバランスを調整します。

バッテリー以外の電源で使う

テープを再生するときなど、長時間使用するときは家庭用コンセントや自動車の電源を使うと、バッテリー切れの心配なく使えます。

本機に接続コードをつないでいると
バッテリーを入れてもバッテリーを電源としては使えません。

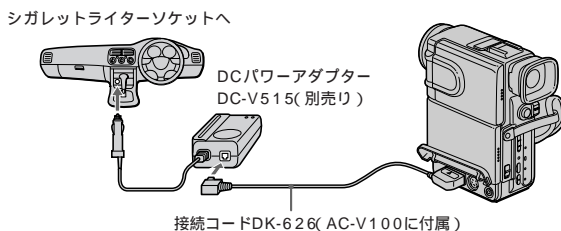
コンセントにつないで使うとき
接続コードをひっぱらないでください。プラグがコンセントから抜けることがあります。コンセントにつないで使うときは、市販の延長コードを使うことをおすすめします。

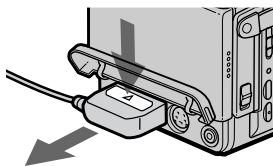
本体内充電をしたときの充電時間(別売りバッテリーパックNP-F100使用時)
本体内充電
満充電:約150分
実用充電:約90分
2個同時充電
満充電:約160分
実用充電:約100分

2個同時充電のときは
本体とACパワーアダプターの両方の充電中ランプがつきます。充電が完了すると両方のランプが消えます(実用充電)。どちらかが点灯していたら両方とも実用充電が完了していません。

DC-V515では
NP-F100、NP-F200の充電はできません。

コンセントにつないで使う

自動車電源につないで使う

接続コードを取りはずす

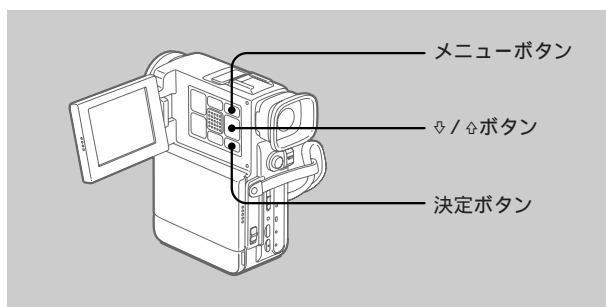
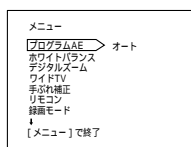
接続プラグのボタンを押しながら抜く。

上の接続をしてバッテリーの充電をする－本体内充電

1 上の接続をし、本体にバッテリーを取り付ける。

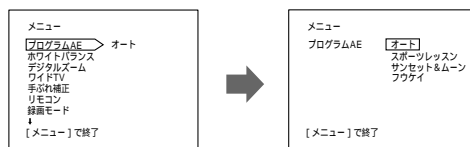
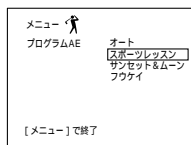
2 電源スイッチを「切」にする。
本体の充電中ランプが点灯し、本体内のバッテリーを充電する。充電が完了すると充電中ランプが消えます(実用充電)。このときACパワーアダプターにバッテリーを取り付けておくと2個同時に充電します。

各種の設定を変える – メニュー

ご注意

- 電源スイッチが「ビデオ」のときと「カメラ」または「フォト」のときでは、メニュー内容が異なります。
- 対面撮影中は、液晶画面にメニュー画面が出ません。

❶ **メニューボタンを押す。**

❷ **⇩または⇧を押して希望の項目を選び、決定ボタンを押す。**

希望の項目だけが表示される。

❸ **⇩または⇧を押して設定を切り換え、決定ボタンを押す。**

❹ **必要なだけ手順2、3を繰り返す。**

メニュー画面を消す

メニューボタンを押す。

使いこなす

次のページへつづく

各設定項目の説明　お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

	項目	設定	意味	どんなとき
電源スイッチが「ビデオ」または「カメラ」または「フォト」のとき	リモコン	●VTR4	VTR4モードにしたリモコンで操作する。	通常はこの位置へ。
		切	リモコンで操作できなくなる。	他機のリモコンによって誤動作するときなど。
		ID	ID番号を登録したリモコンで操作する。	本機を自分で登録したリモコン以外で操作できなくするとき。
		ID登録	ID番号を登録する。	ID番号を登録するとき。
	録画モード	●SP	SP（標準モード）で録画する。	通常はこの位置へ。
		LP	LP（長時間モード）で録画する。	長時間録画したいとき。（SPモードの録画時間の1.5倍）
	おしらせブザー	●入	撮影スタート／ストップ時や誤った操作をしたときにブザーが鳴る。	通常はこの位置へ。
		切	ブザー音が鳴らない。	ブザー音を消したいとき。
	パネル色のこさ		液晶画面の色のこさを調節する。	→詳しくは48ページ
電源スイッチが「ビデオ」のとき	音声ミックス	ST1⟷ST2	音声モードST1⟷ST2間のバランスを調節する。	ステレオ1 (撮影時の音声）とステレオ2（アフレコした音声）のどちらかを大きくしたいとき。
	データコード	●日付／カメラデータ	日付・時刻とカメラデータを表示する。	日付・時刻とカメラデータを確認したいとき。
		日付データ	日付・時刻を表示する。	日付・時刻だけを確認したいとき。

リモコンのID登録については
63ページをご覧ください。

LPモードうまくお使いいただくために

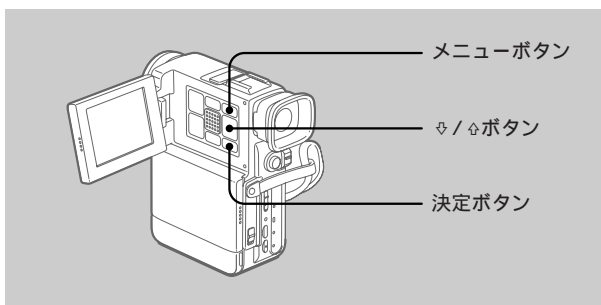
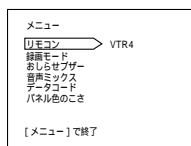
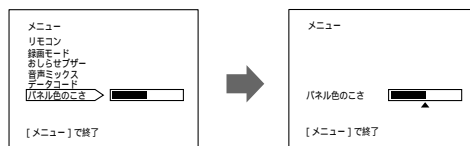
- LPモードでは本機で記録したテープを本機で再生することをおすすめします。他機で記録したテープを本機で再生したり、本機で記録したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- LPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすためにソニー製のMEテープをお使いください。
- LPモードで記録したテープには、本機ではアフレコはできません。アフレコしたいときはSPモードをお使いください。
- テープの途中で録画モード(SP/LP)を変えたり、LPモードでつなぎ撮りをすると、つなぎ撮りの部分で再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

電源スイッチが「カメラ」または「フォト」のとき

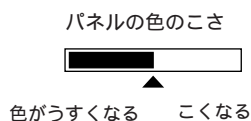
項目	設定	意味	どんなとき
プログラムAE		被写体や撮影状況により適した調節を自動的に行う。	→詳しくは22ページ
ホワイトバランス		ホワイトバランスを調整する。	→詳しくは32ページ
デジタルズーム	●入	デジタルズームを働かせる。（最大ズーム倍率は20倍）	通常の最大ズーム（10倍）でも被写体が小さいとき。10倍をこえると画像は粗くなります。
	切	デジタルズームを働かせない。（最大ズーム倍率は10倍）	デジタルズームが必要ないとき。
ワイドTV	●切	ワイド録画モードにしない。	通常はこの位置へ。
	入	ワイド録画モードにする。	横縦比16:9のワイド（フルモード）で撮影したいとき。
手ぶれ補正	●入	手振れを補正する。	通常はこの位置へ。
	切	－	手振れの心配がないとき。
録画ランプ	●入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	通常はこの位置へ。
	切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。	被写体に撮影していることを意識させたくないとき。
日時あわせ		－	時計を合わせ直すとき。→詳しくは49ページ

電源をはずして5分以上たつと
ホワイトバランス、プログラムAE、音声ミックスのメニュー項目はお買い上げ時の設定に戻ります。
その他のメニュー項目では電源をはずしても設定を保持しています。

被写体に接近して撮るとき
録画ランプが「入」になっていると録画ランプの赤色が被写体に反射して映ることがあります。その場合、録画ランプを「切」にすることをおすすめします。

液晶画面の色のこさを調節する

❶ **メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ **⇩または⇧を押して「パネル色のこさ」を選び、決定ボタンを押す。**

❸ **⇩または⇧を押して「パネルの色のこさ」を調節し、決定ボタンを押す。**

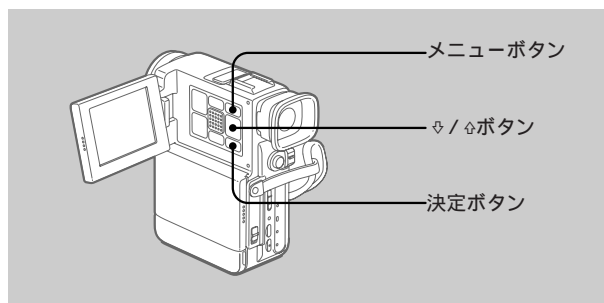
パネルの色のこさ

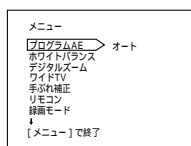
色がうすくなる　　こくなる

❹ **メニューボタンを押してメニュー画面を消す。**

日付・時刻を合わせ直す

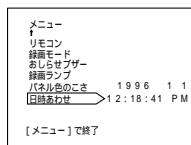
お買い上げ時にあらかじめ日付・時刻は設定されていますが、半年近く使わなかったときなどに内蔵の充電式ボタン電池が放電して日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください。（54ページ）

・海外に行くとき
・しばらく使わずにいて時計が合っていないとき

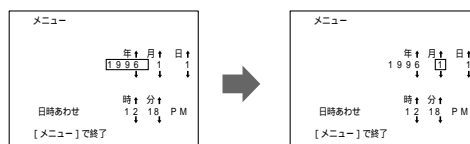
真夜中、正午は
真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

❶ [撮影スタンバイ中] に、**メニューボタンを押してメニュー画面を出す。**

❷ **⇩または⇧を押して「日時あわせ」を選び、決定ボタンを押す。**

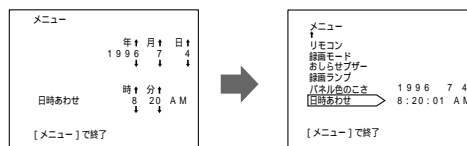
次のページへつづく

使いこなす

日付・時刻を合わせ直す（つづき）

❸ 「年」を合わせる。

⇩または⇧を押して「年」を選び、決定ボタンを押す。
年表示は次のように変わる。

❹ 手順3と同様に「月」、「日」、「時」を合わせる。

❺ 「分」と「秒」を合わせる。

「分」を合わせて時報と同時に決定ボタンを押す。時計が動き始める。

❻ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

使えるビデオカセット

使えるビデオカセット

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。本機には、ミニDVカセットのみ使えます。Mini DVマークのついたカセットをお使いください。

カセットメモリー機能は本機では使えません。

8・Hi8方式や、VHS・VHSC・SVHS・SVHSC・β・ED Beta方式のビデオカセットは使えません。

著作権信号について

再生するとき

著作権保護のための信号が記録されているカセットは本機で再生して見ることはできません。このようなカセットを再生しようとすると液晶画面やビューファインダー、テレビ画面に「COPY INHIBIT」（コピー禁止）の表示が現われます。

なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されているカセットをDVケーブルを通じて本機で録画することはできません。このようなカセットを再生しようとすると液晶画面やビューファインダー、テレビ画面に「COPY INHIBIT」（コピー禁止）の表示が現われます。

本機は、MEテープで最高の画質が得られるように作られています。それ以外のテープを使用すると、十分な画質を得られない場合があります。貴重な記録を高画質で残せるように、MEテープのご使用をおすすめします。

次のページへつづく

ミニDVカセットについてのご注意

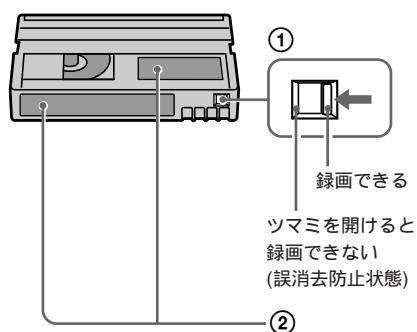
間違って消さないために

カセットの背にある左図①の誤消去防止ツマミを横にずらして、「赤」にします。

ミニDVカセットにラベルを貼るときは

左図②の場所以外には、絶対に貼らないでください。故障の原因になります。

ミニDVカセットの使用後は

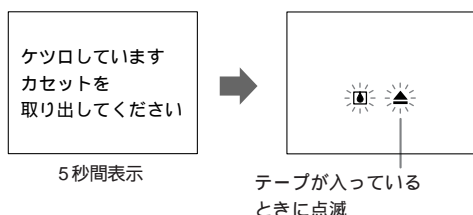
ご使用後は必ずテープを巻き戻してください。（画像や音声が乱れる原因となります）。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

お手入れについて

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、液晶画面に下のように警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

ケツロしています
カセットを
取り出してください

5秒間表示

テープが入っているときに点滅

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、カセット取り出し以外できません。

電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてテープ走行ボタンを押しても⏏が点滅しなければ使用できます。

ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。
次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM12CLを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

・再生画面に四角いノイズが出る。
・再生画面の一部が動かない。
・再生画面が出ない。
・液晶画面やビューファインダーに「⊗ヘッドが汚れています」と「📼クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。または⊗が点滅する。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

（正常画）

や

このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

結露が起こりやすいのは
次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。
・スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
・冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
・スコールや夏の夕立のあと
・温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために
本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドは
長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

次のページへつづく

お手入れについて（つづき）

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し半年近く全く使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合は日時は記録されないままで本機を使うことはできます。

充電方法

本機を別売りのACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切」にして24時間以上放置する。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店、ソニーのサービス窓口、お客様ご相談センター、またはDCR-PC7テクニカルインフォメーションセンター（保証期間のみ）にお問い合わせください。ビューファインダーや液晶画面に見慣れない表示が出たときは、67ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート／ストップボタンを押してもテープが走行しない	・電源スイッチが「カメラ」になっていない。	・「カメラ」にする。	12
	・テープが終わりになっている。	・巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	10,19
	・カセットが誤消去防止状態になっている。	・そのカセットで撮るなら誤消去防止ツマミを赤が見えない側にする。または新しいカセットを入れる。	10,52
	・テープがヘッドドラムに貼りついている (結露)。	・カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	53
	・スタート/ストップモードスイッチが になっている。	・ にする。	12
すぐに撮影が止まる	・スタート/ストップモードスイッチが または「5秒」になっている。	・ にする。	12
	・電源スイッチが「フォト」になっている。	・「カメラ」にする。	12
電源が途中で切れる	撮影スタンバイ状態が5分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	電源スイッチを一度「切」にしてから、「カメラ」にする。	ム
手振れ補正が働かない	メニューの「手振れ補正」が「切」になっている。	「入」にする。	25
オートフォーカスが働かない	誤ってフォーカスボタンを押した。	手動フォーカスを解除する。	30
液晶画面とビューファインダー内に⊗が点滅している	ビデオヘッドが汚れている。	別売りのクリーニングカセットできれいにする。	53

次のページへつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
テープ走行ボタンが働かない	・電源スイッチが「ビデオ」になっていない。	・「ビデオ」にする。	17
	・テープが終わりになっている。	・テープを巻き戻す。	19
ろうそくの火やライトなどの明るい被写体を暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではない。（スミア現象）	—	—
画像がぼやけたり、映らなかったりする	・テレビのビデオ用チャンネルが正しく調整されていない。	・調整し直す。	—
ノイズが多かったり、映らなかったりする	・ビデオヘッドが汚れている。	・別売りのクリーニングカセットできれいにする。	53
音声が小さいまたは聞こえない	・音量を最小にしている。	・音量を大きくする。	18

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチをビデオ／カメラにしても動作しない	・バッテリーが消耗している／入っていない／消耗が近い。	・充電されたバッテリーを入れる。	8, 9
	・ACパワーアダプターのプラグがコンセントからはずれている。	・コンセントに差し込む。	44
エンドサーチが働かない	・撮影後にカセットを取り出した。	—	16,19
	・カセットを入れてからエンドサーチボタンを押すまでに、1度も撮影していない。	—	16,19
ビューファインダーに画像が出ない	・液晶画面が開いている。	・液晶画面を閉じる。	—
バッテリーの消耗が早い	・温度が極端に低いところで撮っている。	—	—
	・充電が不充分。	・充分に充電する。	8
	・バッテリーそのものの寿命。	・新しいバッテリーに交換する。	9

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
カセットが取り出せない	・電源（バッテリーやパワーアダプター）がはずれている。	・電源をきちんと接続する。	9,44
	・バッテリーが消耗している。	・充電されたバッテリーを入れる。	8,9
💧や⏏が点滅し、カセットの取り出し以外できない	結露	カセットを取り出して、約1時間してからもう1度入れ直す。	53
ダビング編集中、DVケーブルを正しく接続しているのにモニター画像が出ない	—	・DVケーブルを一度ぬいてからもう一度接続しなおしてください。	38
付属のワイヤレスリモコンが働かない	・メニューの「リモコン」を「切」にしている。	・「VTR4」または「ID」にする。	46
	・リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。	・障害物を取り除く。	—
	・リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。	・⊕極と⊖極を合わせて、正しく入れる。	62
	・乾電池そのものの寿命。	・新しい乾電池に交換する。	62
本体内充電をした後に充電中ランプが点滅する	故障ではありません。	—	—
電源が入っているのに操作できない	—	バッテリーまたはACパワーアダプターの接続プラグを取りはずし、約1分後再びバッテリーまたはACパワーアダプターの接続プラグを取りつけ電源を入れる。それでも操作できないときはカセット取り出しボタン横のRESETボタンを先のとがったもので押す。（この操作をすると日時を含めすべての設定が解除されます。）	44

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

録画内容の補償はできません

万一、ビデオカメラレコーダーやテープなどの不具合により録画や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“故障かな？と思ったら”の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、また添付の“ソニーご相談窓口のご案内”にあるお近くのソニーサービス窓口、DCR-PC7テクニカルインフォメーションセンター（保証期間中のみ）にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社はビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

海外で使うとき

本機は外国でもお使いになれます

別売りのACパワーアダプターAC-V100は、AC100V～240V・50/60Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米、南米など	主にヨーロッパなど
使用する変換アダプター	**不要です。** ACパワーアダプターのプラグを直接差し込みます。	

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

（NHK文研月報による）

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32kHz (ステレオ1、ステレオ2)
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Mini DVマークの付いたミニDVカセット
テープ速度	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画/再生時間	SPモード：60分(DVM60使用時) LPモード：90分(DVM60使用時)
早送り、巻き戻し時間	約2分30秒(DVM60使用時／バッテリー使用時) 約1分45秒(ACアダプター使用時)
ビューファインダー	電子ビューファインダー：カラー
映像素子	1/3インチCCD固体映像素子
レンズ	10倍ズームレンズ 焦点距離 f = 4.0〜40 mm (35 mmカメラ換算では38〜380 mm) F 1.8〜2.6 TTLオートフォーカス機構付き インナーフォーカスマクロ付き
色温度切り換え	自動追尾
最低被写体照度	8ルクス (F 1.8)
被写体照度範囲	8〜100,000ルクス
推奨被写体照度	100ルクス以上

入・出力端子

S1映像出力端子	4ピンミニDIN (1) 輝度信号：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負 色信号：0.286 Vp-p、75 Ω不均衡
映像音声出力／Ω (ヘッドホン) 端子 (兼用)	特殊ステレオミニジャック (1) 映像：75 Ω不平衡、同期負 音声：327 mV (47 kΩ負荷時)、出力インピーダンス2.2 kΩ以下／ステレオミニジャック (ϕ 3.5) (1)
接続端子	26ピンコネクター
DV入力／出力端子	4ピン特殊コネクター

液晶画面

画面サイズ	2.5型
有効画面領域	50.05×37.1mm (幅×高さ)
使用液晶パネル	TFT (薄膜トランジスタアクティブマトリクス) 駆動
総ドット数	84,480ドット 横384×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー挿入口入力7.2 V 26ピンコネクター8.4 V
消費電力	ビューファインダーを使ってのカメラ録画時: 5.0W 液晶画面を使ってのカメラ録画時: 6.0W
動作温度	0 ℃〜+40 ℃
保存温度	−20 ℃〜+60 ℃
最大外形寸法	59×129×118mm (幅×高さ×奥行き)
本体質量	約500 g (バッテリー、テープ含まず)
撮影時総質量	約620 g (バッテリーパックNP-F100、テープDVM60含む)
内蔵マイクロホン	ステレオエレクトレットコンデンサーマイク
スピーカー	圧電スピーカー
付属品	ワイヤレスリモコン (1) 単3型乾電池 (リモコン用) (2) レンズキャップ (1) AV接続ケーブル (1) S映像ケーブル (1) バッテリー端子カバー (1) 取扱説明書 (1) 取扱説明書 (安全のために) (1) 保証書 (1) ソニーご相談窓口のご案内 (1)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

各部のなまえ 使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

本体

内蔵ステレオマイク

レンズキャップ（12ページ）

アクセサリーシュー（28ページ）

液晶画面（15, 17, 21ページ）

アイカップ（11ページ）

ビューファインダー（11ページ）

スタート／ストップモードスイッチ（13ページ）

電源スイッチ（12ページ）

充電ランプ（44ページ）

テープ走行ボタン（19ページ）

バッテリーまたはバッテリー端子カバー（9ページ）

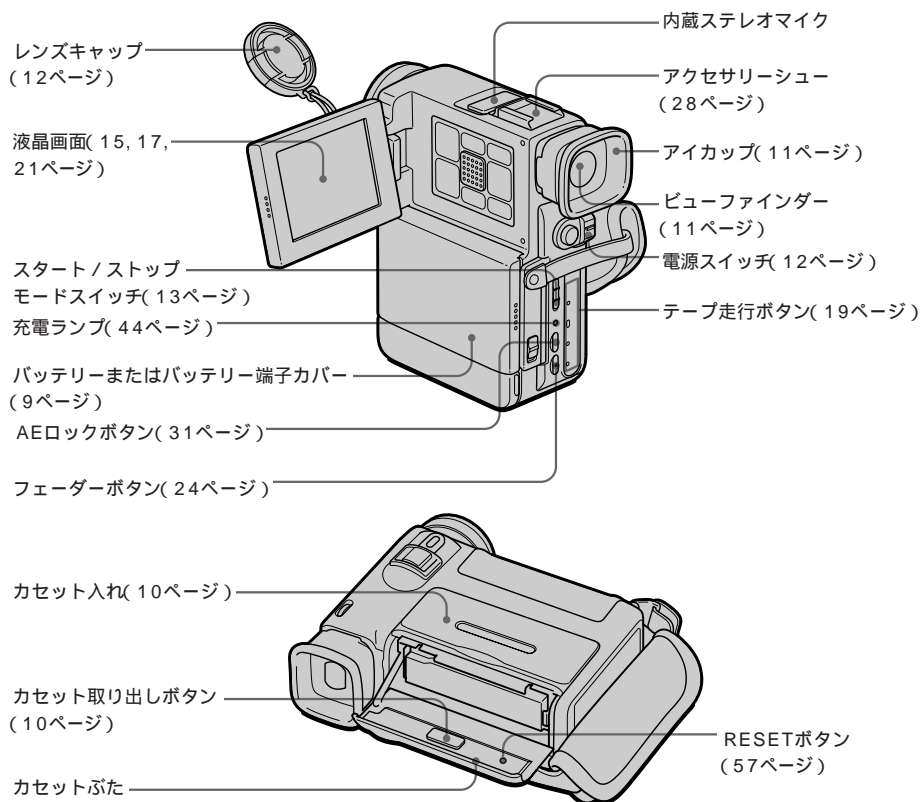
AEロックボタン（31ページ）

フェーダーボタン（24ページ）

カセット入れ（10ページ）

カセット取り出しボタン（10ページ）

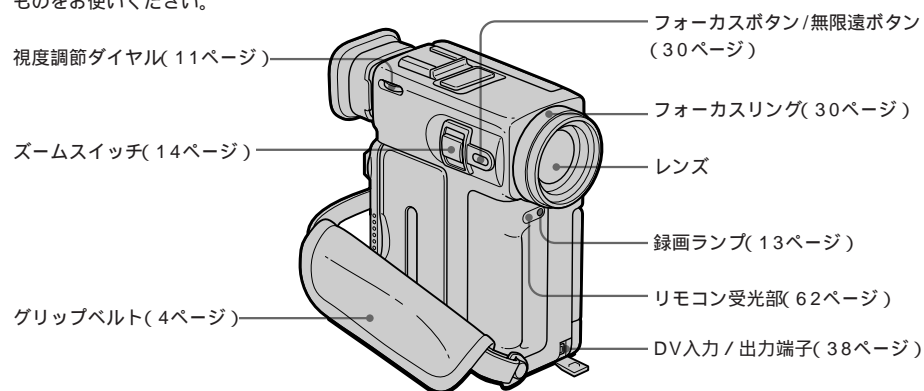
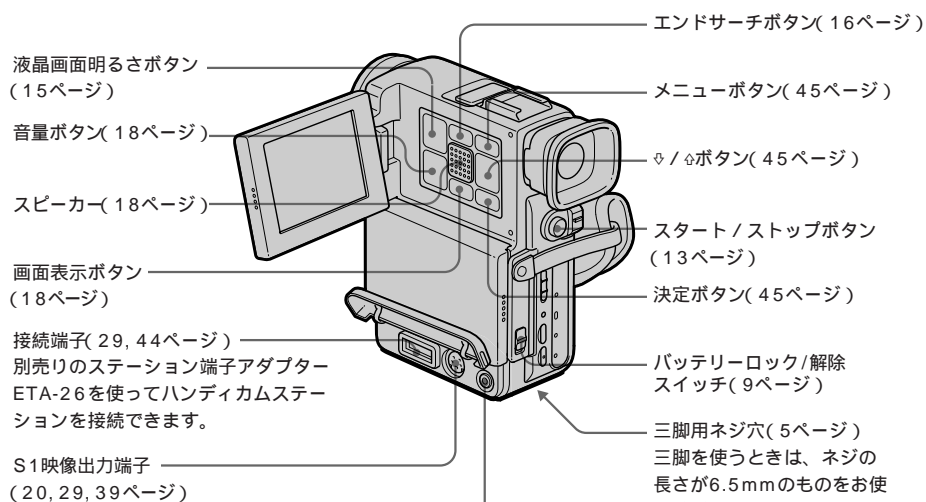
RESETボタン（57ページ）

カセットぶた

このマークは、ソニーのビデオ機器関連商品の純正マークです。

ソニーのビデオ機器をお求めの際は、同じマークもしくはソニーのロゴマークがついているビデオ機器関連商品をお勧めします。

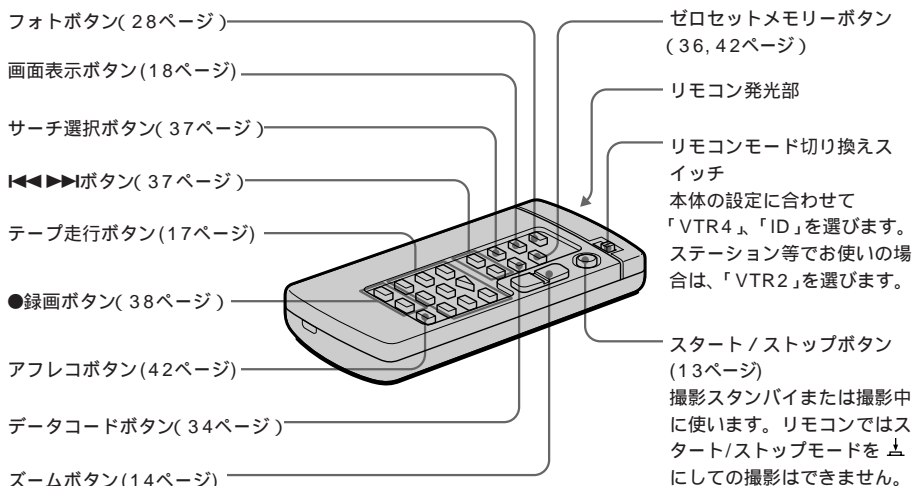
これは登録商標です。

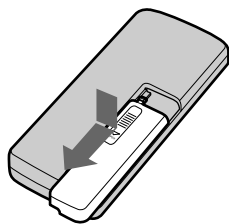
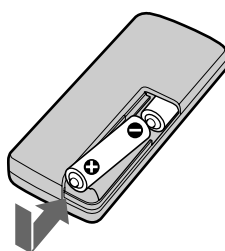
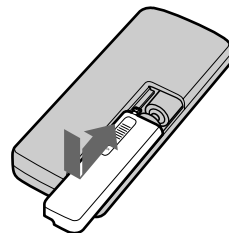
本機を保管するときは

バッテリー端子カバーを取りつけてください。これはバッテリー端子を保護するためです。

別売りのステーション端子アダプターETA-26を接続端子に取り付けて

ハンディカムステーションを接続できます。基本的な再生動作を行うことは可能です。ただしステーションのライン入力は使えません。

各部のなまえ（つづき） 使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

❶ 押しながらずらす。

❷ 入れる。単3形2本

❸ もとに戻す。

乾電池について

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

・ ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
・ 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
・ 乾電池は充電できません。
・ 長い間乾電池を使わないときは、取り出しておいてください。

液もれがおこったときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンについて

・ 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
・ 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、本体のリモコンモードを「ID」に切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

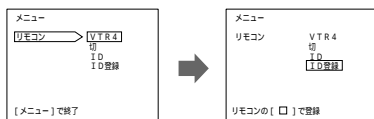
リモコンのIDを登録する

リモコンモード切り換えスイッチを「ID」にすると、他の人のリモコンで動作しないようにできます。「ID」設定した場合には、本体に付属しているリモコンをお使いください。はじめてお使いになるときにリモコンのID登録をしてください。リモコンの登録は、次のようにします。

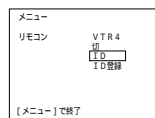
❶ 液晶画面を開く。

❷ メニューボタンを押し、メニュー画面を出す。

❸ ⇩または⇧ボタンを押して「リモコン」を選び、決定ボタンを押す。

❹ ⇩ボタンを押して「ID登録」を選ぶ。

❺ リモコンのリモコンモード切り換えスイッチを「ID」にする。

❻ リモコンを本体に向けて、リモコンの■停止ボタンを押す。

「ピーッ」と鳴って、登録が完了します。カーソルはIDの位置に移ります。

❼ メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

ご注意など

リモコンの操作範囲
リモコンの届く範囲は屋内使用時で約5mです。本体のリモコン受光部に向けて操作してください。角度によっては操作できない場合があります。

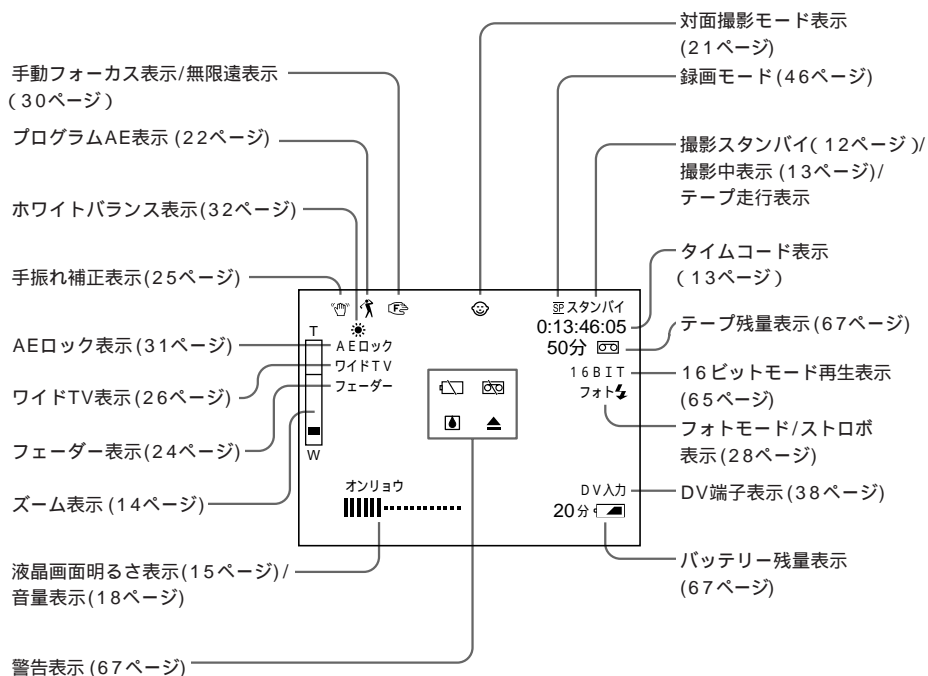
リモコンとリモコン受光部との間には
障害物がないようにご注意ください。

リモコンのIDを一度本機に登録すると
再び登録する必要はありません。メニューを「ID」に合わせ、リモコンのリモコンモード切り換えスイッチを「ID」にしてお使いください。

登録したIDは内蔵の充電式ボタン電池が放電しても消えません。

次のページへつづく

各部のなまえ（つづき） 使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

液晶画面とビューファインダーの表示

用語解説

ア行

音声モード …42ページ
音声の記録モードのこと。DV方式では、次の2つのモードがある。

① 12ビットモード
ステレオ1（撮影時の音声）とステレオ2（アフレコした音声）の2つのステレオ音声が32kHzで記録できる。本機では再生時にメニューの音声ミックスでステレオ1とステレオ2のバランスを調整でき、どちらの音声も聞くことができる。

② 16ビットモード
あとから音声を追加することはできないが、1つのステレオ音声を高音質で記録できる。本機では記録はできないが、32kHz、44.1kHz、48kHzで記録された音声を再生することができる。
再生時に、液晶画面やビューファインダーに「16BIT」と表示される。

タ行

タイムコード…13ページ
テープ上の位置を映像とともに時・分・秒・フレーム（1フレーム＝約1/30秒）単位で記録する機能。1フレームが映像の1コマに対応している。DV方式ではフレーム単位でカウントできるので、テープ位置の正確なカウンターとして使える。テープの途中に無記録部分があるとタイムコードは0から始まる。本機のタイムコードはドロップフレーム方式である。

データコード …34ページ
テープを録画した日付（年・月・日）、時刻（時・分・秒）とカメラデータをテープに記録する機能。再生時、必要に応じて画面上に表示できる。後から撮影日時と撮影情報の確認をする場合などに使える。

手振れ補正 …25ページ
カメラの揺れを感知して、その揺れを補正する機能。手振れ補正を使用しても画質や画角、消費電力は変わらない。

ドロップフレーム方式…13ページ
本機はドロップフレーム方式を採用している。30フレーム／秒でカウントするタイムコードと、フレーム周期が29.97秒のNTSC映像信号との間に起きるずれは自動的に補正される。分の単位が更新されるときに、フレームを02から始めることで補正を行う。ただし分が10の倍数のときは00から始める。

ハ行

プログラムAE（エーイー） …22ページ
被写体や撮影状況により適した撮影を可能にする機能。本機には3種類のモードがある。
シャッタースピードやアイリス（絞り）をモードにより自動で調節する。

ヘッド …53ページ
映像や音声信号をテープに記録したり、テープに記録されている信号を読み取ったりする本機の心臓部分。使っているうちに汚れて、きれいに再生できなくなったときは、クリーニングカセットを使ってきれいにする。

ホワイトバランス…32ページ
白い被写体が白く映るように色を調整すること。本機では自動設定、手動設定のほかに☀（屋外）、☼（屋内）の設定を選べる。

ラ行

リモコンモード …46ページ
リモコン信号の種類。ソニー製ビデオ機器間でのリモコンによる誤動作を防ぐために、VTR1・VTR2・VTR3・VTR4・IDの5種類がある。本機はVTR4とIDのどちらかを選ぶ。大勢の人が集まって撮影するときや誤動作を避けたいときはIDモードを選ぶ。

ワ行

ワイドTVモード …26ページ
再生したときにワイド画面（横:縦＝16:9）になるように撮影するときの設定。

次のページへつづく

用語解説（つづき）

アルファベット順

DV静止画ビデオキャプチャーボード…28ページ
デジタルビデオの画像をパソコンに静止画として取り込むためのパソコン用の拡張ボード（基板）。
本機のDV端子を使って接続すると、デジタルのまま画像をパソコンに転送できる。市販のアプリケーションソフトウェアを使えばパソコンに取り込んだ画像をさまざまに加工したり、印刷したりできる。

DV方式…38ページ
コンスーマー向けに新たに開発されたデジタルVTRの方式。映像および音声信号をデジタル信号でテープに記録するため、高画質、高音質で記録できる。

ID-1方式…27ページ
ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比(16:9、4:3またはレターボックス）の情報を通信するシステムのこと。この方式に対応しているテレビとつなぐと、自動的にテレビのワイドモードが切り換わる。

ID-2方式
ID-1方式に加え、著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステム。

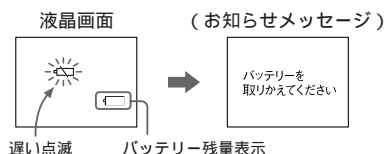
InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリー…8ページ
インフォリチウムバッテリーに対応した機器との間で、バッテリーの使用状況に関するデータ通信をする機能を持った新しいタイプのリチウムイオンバッテリー。本機はインフォリチウムバッテリー対応です。インフォリチウムバッテリーNP-F100、NP-F200で使えます。
InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

NTSC（エヌティーエスシー）方式…58ページ
日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式。NTSC方式で記録されたテープは、ヨーロッパなどで使われているPAL（パル）やSECAM（セカム）方式のビデオでは再生できない。
海外で本機を使うときは、ご注意ください。

S映像端子/S1映像出力端子…20、39ページ
映像信号を構成する色信号と輝度（白黒）信号を分離して、より鮮明な映像を再現する端子。S1映像信号では、通常のS映像信号にワイドモード自動選択用の信号が加算されている。

警告表示とお知らせメッセージ

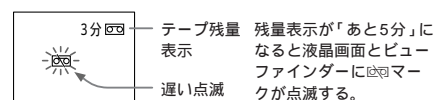
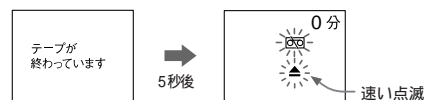
液晶画面とビューファインダーには、次のような表示が出ます。詳しい説明は、(　)内のページにあります。
・ 対面撮影中はお知らせメッセージは出ません。
・ 表示は実際には黄色です。
・ ♪はおしらせブザー音の鳴るものです。

バッテリー残量

バッテリー残量表示について

インフォリチウムバッテリーNP-F100、F200をお使いのときは分表示も出ます。＊

残量表示が▭になると液晶画面とビューファインダーに▭マークが点滅する。インフォリチウムバッテリーNP-F100、F200をお使いのときは残量時間が5分〜10分あっても環境によっては▭マークが点滅する場合があります。
＊残量時間は使用状況や環境により正しく表示されない場合があります。

テープ残量

残量表示が「あと5分」になると液晶画面とビューファインダーに▭マークが点滅する。

♪テープの終わり

日付・時刻の未設定（49ページ）

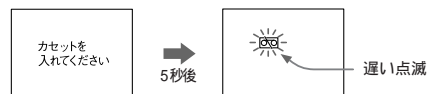
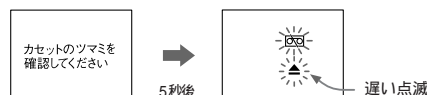
日付、時刻を設定してもこのメッセージが出る場合は、内蔵の充電式ボタン電池が放電しています。充電してください。（54ページ）

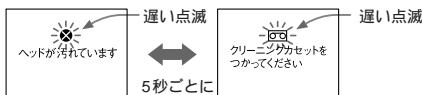
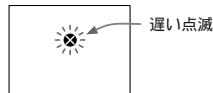
日付 時刻を
あわせてください

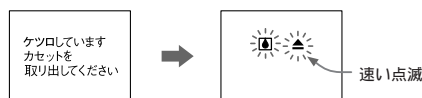
バッテリーの寿命

バッテリーパックNP-F100、F200をお使いのときのみ表示が出ます。

このバッテリーは
古くなりました
取りかえてください

♪カセットが入っていない

♪カセット誤消去防止（52ページ）

カセットの誤消去防止ツマミを確認する。

ヘッド汚れ（53ページ）

対面撮影中

クリーニングカセットできれいにする。

♪結露（53ページ）

テープを取り出し、カセット入れを開けたまま約1時間放置する。

♪その他の異常

一度電源を切り、バッテリーを取りはずす。再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。それでも表示が消えないときは、お買い上げ店か、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

ご注意など

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

こんなときはこの機能

撮影するとき

撮影状況に合わせたい

暗い
　夜景、夕景、花火
　　→ サンセット＆ムーンモード（22ページ）
撮りたいところが広い
　→ 風景モード（22ページ）
列車から窓の外を撮る
　→ 風景モード（22ページ）
被写体の動きが速い
　ゴルフスイングなど
　　→ スポーツレッスンモード（22ページ）

画像をこうしたい

より自然な感じにしたい
　→ 手振れ補正解除（25ページ）
画像の明るさを固定したい
　→ AEロック（31ページ）
効果的な場面転換をしたい
　→ フェードイン、フェードアウト（24ページ）
意図的にピントを合わせたい
　→ 手動ピント合わせ（30ページ）
映画のように横長の画像にしたい
　→ ワイドTVモード（26ページ）
ズーム時の画質の低下を抑えたい
　→ メニュー：デジタルズーム（47ページ）

再生するとき

液晶画面の色が変
　→ 液晶画面の色のこさを調節する（48ページ）
見たい場面にすばやく戻したい
　→ ゼロセットメモリー機能（36ページ）
各場面の頭出しをしたい
　→ 各場面の頭出しがしたい（37ページ）
撮影した日時を確認したい
　→ データコード（34ページ）

保証期間中の故障に関するお問い合わせは

DCR-PC7
テクニカルインフォメーションセンターへ
0120-28-8089（フリーダイヤル）

ソニー株式会社　〒141 東京都品川区北品川6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

●東京(03)5448-3311 ●名古屋(052)232-2611 ●大阪(06)539-5111

ご相談になるときは次のことをお知らせください

●型名：　DCR-PC7
● 故障の状態：できるだけ詳しく
● お買い上げ年月日

Printed in Japan